
イナズマ11

ザ・アドベンツ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イナズマード

【著者名】

ザ・アドベンツ

【あらすじ】

円堂守率いるイナズマジャパンが世界一になつて1ヶ月後イナズマジャパンのメンバーは自分の中学校に戻りサッカーを楽しんでいます。そしてこれは円堂守の新たな物語である。

オリキヤラ設定

オリキヤラその1
名前 神無月 愛かんなづきあい

特徴、瞳の色は薄い水色、髪の毛の色は濃いピンク、髪の毛は肩ぐらい、

設定、日本中で話題のスーパーアイドル

年齢は14歳、雷門中学に転校してきた中学一年生、クラスは円堂と同じ、アイドル登録名はラブリン

オリキヤラその2

名前 杉村 メロディース

性別 女

アメリカ人と日本人のハーフでドイツからの留学生、まつすぐであきらめない気持ちが強い円堂守に憧れている中学一年生。黒くて、ねこみみみたいな物がある帽子を被つたいる（たまご）つちのメロディー（つちと同じ）世界で有名なバイオリスト

第1話 開催 東京TVレース

雷門中でサッカーを楽しむ円堂たち、マネージャーの木野秋が休憩を入れ休んでいると響木監督が訪ねてきた

響木「お前達、面白い事話す。」

円堂「面白い事?」

響木「明後日から東京TVレースが開催する。出場者は、5人から11人だ。」

染岡「なんかすげー事が始まりそうだぜ。」

鬼道「響木監督まさか帝国学園も出るんですか。」

響木「ああ、帝国だけでなく御影専農や野生中も出る」

豪炎寺「フットボールフロンティア地区予選で出たチームが出場するのか。」

響木「そこで雷門メンバーの出場者は、鬼道、松野、豪炎寺、半田、土門、一之瀬、影野、風丸、染岡、闇野、円堂、以上だ。」

目金「良かつた選ばれなくて。」

宍戸「全員一年生か。」

円堂「よし、みんな全力で走るぞお。」

メンバー「オ」

レース当日。

温子「守ー今日はテレビ局でレースするんでしょう。」

円堂「いけね、寝過ごした。」

木野「あ、来た来た」

円堂「おーい」

風丸「遅いぞ円堂」

鬼道「時間は間に合つたがな。」

円堂「ワリーワリーつい寝過ごしちまつて」

冬花「でも、これで全員揃いましたね。」

佐久間「鬼道」

鬼道「佐久間、源田

お前は「不動」

不動「言つてなかつたか。俺帝国に転校してきたんだぜ。」

円堂「そんなんだ」

佐久間「俺たちだけじゃない地区予選で出たチームもいるぜ。」

夏末「なんか向こう騒がしいわね。」音無「夏末さん、見て下さる
スーパーアイドルのラブリンがいますよ。」

ラブリン「みなさん、こんにちわ～ 今日は東京テレビ局で東京
TVレースを行います。チャンネルはそのまま。」

栗松「やっぱリラブリンは最高でヤンス！～」

円堂「なあ、豪炎寺ラブリンてそんなにすじこのか？」

豪炎寺「お前、知らないのか？」

円堂「知らない！」

夏末「円堂くん、テレビ何見てるの！？」

円堂「まず、サッカーの試合だろ、ホイップルに、」

半田「もういい」

豪炎寺「くすくす」

ラブリン「では、スタート前にインタビューします。ん！？」

ラブリンは円堂を見た。

ラブリン「オレンジのヘアバンドのあなた、ちょっといいますか。」

円堂「はい」

ラブリン「」のレースでの一言ですが、出場での感想はいかがですか。」

第1話開催東京TVレース・・・・?

円堂「出るからには優勝を目指したいと思います。でもそれが無理でも田標のゴールに向かつて走るだけです。」

ラブリン「田標のゴール?」

円堂「はい、ここにいるみんなは田標のゴールに向かつて走るんだ。さあみんなゴールに向かつたて走るべ~。」

参加者

「お~」「~」「~」

ラブリン「す~」、「今のかけ声でみなさんやる気満々これはす~」レースになります。そろそろレースが始まります。みなさん用意は良いですか?」

参加者「~」「はい」「~」

ラブリン

「それではスタート

さあ始まりました東京TVレース、先頭は!~雷門~中の風丸くんです、これは早い。その後ろに円堂くんが続きます。さあこのレースの行方はどうなるのでしょうか、チャンネルはそのまま。」

第2話決着、東京TVレース

ラブリン「ええ、このレースはいろいろな種目が用意しています。あ、第1種目は、ドリブル突破です。この種目はサッカー ボールで技を使うか使わないかの自由です。早速風丸くんが行きます。」

風丸「風神の舞改」 円堂「やるな、風丸俺も負けないぜ。ハアア、ドリヤ」

ラブリン「風丸くん円堂くん共に突破しました。」

風丸「やるな円堂」 円堂「へへ負けないぜ風丸。」

ラブリン「次来たのは帝国学園の佐久間くんです。」

佐久間「フツ」

ラブリン「佐久間くん見事な動きでかわしました。」

佐久間「活躍してるのは雷門だけじゃないぜ。」

ラブリン「ええこちらはシユートポイントです。こちらはピラミッドの形をしたたくさんのドラム缶をすべて倒して進んります。」 豪炎寺「真ファイアトルネード。」

ガシャン

ラブリン「なんと一発で全てのドラム缶を倒しました。」 染岡「やるじゃねーか豪炎寺、だが俺だって真ドラゴンクラッシュ。」

ン ガシャン

ラブリン「すゞい豪炎寺くんに続き染岡くんも一発で全部倒しました。」 レースはいよいよ終盤に差し掛かった、ラブリン「ええこちらゴールとなる商店街です。1番最初に来たのは雷門中の円堂くんです。」

少林「キヤプテンが来た。」

夕香「頑張つて」

そしてもう少しでゴールとゆう所でゴール近くの坂をトラックが走っていたそしたら

ガタツ「ゴロゴロ

ラブリン「あと、大きなタイヤが女の子にぶつかりそうです。」

円堂「あれば、夕香ちゃん」

ラブリン「円堂くんコースを外れました。」

夕香「お兄ちゃん」

円堂「真ゴッドバンド、うおおお」

ラブリン「円堂くん必死でタイヤを止めます、でもタイヤが大きすぎで抑えきれていません、ここで帝國学園の源田くんが来ました。」

源田「円堂！？女の子を助けているのか！？任せろ。」

ラブリン「なんと源田くんが円堂くんの背中を支えて止めます。」

源田「女の子が離れた今だタイヤを離すぞ。」

円堂「ダメだ！」

源田「何！？」

円堂「後ろを見るこのタイヤゴールに向かってる。だからこのタイヤここで倒すんだー。」

杉森「ロケット！」ぶし…」

円堂「杉森」

杉森「円堂、源田俺も支えるぞー！」

円堂、源田、杉森「おおおお、トリプルディフェンス！！！」ド

ーン

ラブリン「た、倒しました。3人の力が一つになりタイヤを倒しました。」

円堂「よし、レースの続きだー！！」

ラブリン「ゴール！！！1位は、円堂くん2位に源田くん、3位は、杉森くんです。でも一番素晴らしいたのは、3人の力が一つになつてところです」

壁山「キャプテン、おめでとうっス」

豪炎寺「円堂、夕香が助かったよ。」

円堂「ああ、俺の仲間の妹だからな。」 ラブリン「1位の円堂くん、おめでとうございます。」

円堂「ありがとうございます。」

第3話 転校生はスーパー・アイドル

????「（）」が雷門中

円堂「やべえ、遅刻だー、ま、間に合った！！」

木野「おはよう、円堂くん」

円堂「おはよう、秋」木野「ねえ、知ってる？今日、転校生が来るらしいよ。」

円堂「転校生？」

豪炎寺「ああ、俺も聞いた。」

闇野「俺もだ。」

先生「ハ～イ、席に付け。今日は転校生を紹介するぞ、入りなさい。

ガラツ

先生「では、自己紹介を。」

????「はい、神無月 愛です宜しくお願ひします。」

男子生徒「「おお～、かわいい～」」

先生「席はそこで。」

神無月「はい。」

円堂「宜しくな、神無月。」

神無月「宜しくね。円堂くん。」

円堂「あれ？何で俺の名前知つてんだ？」

神無月「あ、そ、それは、」チラッ

豪炎寺「（なんだ？）」

神無月「先生、私、用事が出来だの帰ります。」

男子生徒「「ええ～」」

神無月「これから宜しくお願ひします。」

円堂「授業遣らずに帰つたよ。」

中本「ラブリン、急いで。今日は、ドラマの撮影やCDのCMのスケジュールがあるから。でもせつかくの登校日なのに。」

ラブリン「大丈夫。アイドルの仕事も頑張るから。それからありが

とう、私がラブリンだつて事黙つてくれて。」

中本「ええ、ラブリンだつて事バレたら大騒ぎですもの。」

スタッフ「ラブリンさん、本番入ります。」

ラブリン「ハ～イ」

一方、雷門中

一之瀬「転校していきなり早退なんて、珍しいな。」

闇野「いくぜ円堂、俺の新技うおおお！」

円堂「いかりてつつい～～、ぐあ」

バ～アン

闇野「よし」

目金「黒い剣で、ナグナロクと名づけしそう。」

円堂「すげーいいシユートだ、シャドウ。それにみんなも格段アッ
プしてるぜ。この調子でいこうぜ。」

雷門イレブン「「「おお～～～」」

第4話雷門イレブンぶつつけ生放送！？

今日は雷門中一年生は、テレビ局に見学しに行く日です。

少林「キャブテン、おはよひります。」円堂「おはよひ少林、穴戸。」

穴戸「今日キャブテンたちは、テレビ局に見学しに行くんですね。」

円堂「ああ」「おはよひ」

豪炎寺「オウ、円堂」

木野「おはよひ、円堂くんテレビ局の見学楽しみだね。」

円堂「神無月はまだ来てないのか！？」

闇野「今日は休みらしい。」

円堂「神無月が転校して5日はたつけど、途中で早退したり欠席したりするよな。」木野「なんでだるー？」

先生「そろそろ行きますので支度して下せい。」

円堂たちはテレビ局にやつてきました。

先生「クラス」とに分かれます。でもサッカー部はサッカー部で行動して下さい。」あずま「サッカー部は部員同士かー？」

先生「では見学します。」

早速円堂たちはテレビ局の見学し、お笑い芸人やクイズ番組、時代劇の撮影風景を見て盛り上がっている。

大谷「あ、ラブリンよー！」

ラブリン「あ、円堂くんみんなも。あ、」あずま「なんでラブリンが円堂のこと知つてんだ？」

鬼道「忘れたのか？円堂は東京TVレースで会つている。」

あずま「あ、そつか」ラブリン「今日はなんでテレビ局に？」

円堂「俺たちテレビ局に見学しに来たんだ。」

ラブリン「（そつか、今日雷門中はテレビ局見学の日だったのね、すっかり忘れたわ！）」「そうだ、これから私の生放送やるけど良

かつたら見てく？』

田堂「え？ いいのか？」

ラブコン「おもひで」

男子生徒「うおおお! プリンの生放送だ~」

円堂「へえ、これがアイドルのステージか！？」

ラブリン「まず生クリームを良くかき・・・・・混ぜ・・・・t

L

雷門生徒「ああ

撮影監督「ラブリンドちゃん、疲れが溜まっていたんだな、しかしこれから始める生放送どうするかー？」田堂「俺たちにやらせて下さい。」撮影監督「…………わかった、君たちにやらせてみるよ。

丹堂「みんな、Jの撮影に誘つてくれたブロンのためにやるぜー」「雷門イレブン」「おおー」「」

11

第4話 雷門イレブンぶつつけ生放送！？・・・・・？

「ラブリンが倒れて雷門イレブンが変わりに生放送すること」。

円堂「ええ、ラブリンショーの『』覧の皆様今日はラブリンが休みなので変わりに俺たちが出演します。」

搭子「円堂！？」

温子「守！？」

円堂「ではまず稻妻町今日一面から。ゲストは豪炎寺さん染岡さんの2名です。今日一面は、イケメン俳優の鳩野建さんと女優の星野亜美が付き合つてるとのことらしけど！？」

豪炎寺「ああ、それ本当らしいぜ。」

円堂「ええ！ そうなのか！？」

染岡「それだけじゃねー、もう結婚してる噂がある。」

円堂「そうなんだ、次はミニドราม、ザ、チアガールをお送りします。」

夏末「なんで私が！？ ··· ··· ··· 頑張って私あなたを応援してることから、ファイト！」

円堂「そして今日の5分間クッキング」

木野「今日の5分間クッキングでは星型ドーナツを作ります。」

鬼道「そいつは楽しみだ。」

木野「5分たつてはい完成。」

鬼道「これはうますうだ。」

放送は雷門イレブンの力で順調に進んだ。円堂「最後に雷門 夏末さん、木野 秋さん、久遠 冬花さんがラブリンのヒット曲ラブリーハートを歌います。」

雷門イレブンのおかげで生放送は大成功になった。そして次の日

久遠「円堂」

円堂「はい、久遠監督」

久遠「お前に電話だ。」

円堂「誰からだろ！？もしもし！」

ラブリン「ここんちちは円堂くん私ラブリンよ。」

円堂「ええーー！ラブリン、体はもういいの？」

ラブリン「うんーもうすっかり良くなつたよ。それから昨日は本当にありがとうございました。これからラブリンショー遣るけど良かつたら見てね。」

円堂「ああーみんな練習休憩だ。（俺、ひょっとラブリンのファンになつたかもしない。）」

第5話 特別授業友達との絆

神無月家

神無月の父「愛はまだ寝てるのかな？」

神無月の母「いけない！ そろそろ起こさないと学校に遅れちゃう。」
神無月「おはよう、パパ、ママ、今日は久しぶりに最後まで学校にいられるのね。」

雷門中

神無月「おはよう、木野さん」

木野「おはよう」

円堂「おはよう、神無月」

神無月「円堂くんおはよう」

先生「今日の午後の授業は、グループを組む特別授業を行います。グループの仲間と相談して調べたいことを調べて下さい。」そして

午後

先生「では、クジでグループを決めます。」円堂「俺は3番か。」

木野「円堂くんは何番？」

円堂「3番だ。」

木野「私も3番よ。」円堂「一緒の班だな後3人か。」

豪炎寺「俺たちも3番だ。」

円堂「豪炎寺、シャドウ！」

闇野「どこでも一緒だな。」

木野「後1人ね。」

神無月「私も3番。」円堂「あー神無月。」

木野「何調べる？」

豪炎寺「円堂、サッカー以外で頼む。」

円堂「やつぱりダメか！？」

木野「調べる気だつたんだ。」

神無月「友達については、どうかな？」

円堂「友達について？」

神無月「うん、学校に幼なじみや転校生とかでいろんな絆が生まれてくるでしょう。だからこれを調べるのはどうかな？」

円堂「それはいいアイデアだぜ、神無月。よし、みんな友達についてを調べるぞ～。」

グループメンバー「「おお～」」

第5話 特別授業友達との絆・・・・・?

特別授業で友達についてを調べることになった円堂グループ。円堂「ふゆつペは友達についてどう思つ?」

冬花「私とつて友達は、仲良しこことだと思います。」

円堂「俺たちが小学生の時も仲良かつたよな。」

豪炎寺「染岡、お前は友達についてどう思う?」

染岡「俺にとつて友達は信頼することだな。」

豪炎寺「信頼か、尾刈斗中の試合を思い出すな。」

染岡「ああ、お前と信頼してできたのがドラゴントルネードだったな。」

円堂グループは順調に友達のデータを集めた。

闇野「友達のデータは順調だな。」

木野「見て、芸能人で友達なりたいの質問。ラブリンがダントツ1位よ。」

豪炎寺「他の男子もラブリンと友達になりたいらしいぜ。」

神無月「え!?」

今から神無月が雷門前中に転校する4ヶ月前。

東京都江戸川中

女子生徒A「ねえ知つてる?あの子ドラマに出るつて!」

女子生徒B「だから最近学校休んでるのね。」

神無月「!?」

女子生徒A「いいわね、学校サボれて。」

神無月「」

中山「別の学校に転校したほうが良さそうね。この学校なら芸能人もたくさんいるし。」

神無月「ええ」

東京都沢谷中

神無月「私、急な仕事が、?あの、」

「

女子生徒C「勝手に行けば、いいわよねえ、売れ子は」

神無月「」

中山「今までの中学校は大丈夫かしら?」

神無月「中山さん」

中山「?」

神無月「私がラブリンだつて事秘密にします。」

中山「ええ!?」

神無月「今まで私がラブリンだつてゆつてたからひどい事言われた
でしょ。ウソをつくのはつらいけどみんなと友達になるためはこれ
しかないと。」

中山「……わかつたわ、それがあなたの決心なり。」
そして今に至る。

円堂「どうした神無月?」

豪炎寺「何かの悩み事なら言つてみろ。俺たち友達だからな。」

木野「私たち友達の前でウソや隠し事はダメだから。」

神無月「うん」

フルルルル

神無月「ええ? 中山さん、なぜ?」

円堂「神無月?」

神無月「『めんなさい』突然用事ができちやつて、本当に『めんな
さい!』

豪炎寺「……栗松「体育は疲れるでヤンス、ん? あれは神無月さ
んまだ学校終わつてないのに?」 テレビ局

撮影監督「はいラブリンちゃんお疲れ。」 ラブリン「はい、お疲れ
さまでした。はあ~」

中山「どうしたのラブリン? 元気ないようだけじまた具合でも悪い
の?」

ラブリン「そりゃないの。私どうすればいいの?」

中山「どうしたの?・友達について?」

ラブリン「ええ」

中山「悩む事ないわよー。」

ラブリン「え！？」

中山「だつてラブリンは雷門中に転校して前より明るくなつたんですけどもの。」

ラブリン「そうよね、ありがとう中山さん。」

中山「明日こそ仕事オフにしつくから。」ラブリン「はー」

次の日

先生「次は3班発表どうぞ。」

円堂「俺たち3班は友達についてを調べました。友達はとてもすごい物だと思います。俺たちの心と心が一つになつてる時これが本当の友達になるんです。」

神無月「（本当の友達）」

第6話円堂の誕生日 ハイコンの告白

神無月の夢の中

木野「神無月さん、ドラマの撮影遣るから学校サボるみたいよ。」
大谷「いいわよねえ~。」

神無月「円堂くん。」

円堂「話かけるな。」

神無月「え！？」

円堂「俺たちもう友達じゃないよ。」

神無月「あ、はあ夢で良かつた。」

雷門中

神無月「でも、私がラブリンだつて事話しても円堂くんずっと友達でいてくれるかな。」

染岡「豪炎寺、シャドウ、ちょっと来ててくれねーか。」

神無月「（染岡くん？）」

半田「雷門に転校して来たみんな知らないと思つけど再来週の日曜

円堂の誕生日なんだ。」

鬼道「そうか再来週か。」

風丸「円堂はダークエンペラーズになつた俺たちの日を覚ませてくれた、だからその恩を返したいんだ。」

豪炎寺「恩を返す誕生会か。ああ、俺も賛成だ。」

音無「でも、場所はどうするんですか？」

風丸「それが問題なんだよな。」

土門「部室は？」

鬼道「少し狭くて無理だな」

壁山「いつも行く鉄塔どうつスつか？」

影野「風が吹いてゴミ飛んでくるし、外じゃ無理だよ。」

神無月「私の家ならいいよ。」

風丸「神無月！？いいのか、君の家じゃ迷惑じゃないのか？」

神無月「大丈夫、私の家力フェだから、ケーキや飾り付けはママにゆつておくから。」

夏末「神無月の家は、カフェだったの！？」

風丸「とりあえず場所は決まつたな。」染岡「風丸」

風丸「なんだ染岡？」染岡「恩を返す誕生会だ、吹雪たちを誘うか。同じ雷門のユニフォームを着た仲間だ。」

風丸「ああ」

木野「神無月たくさんの人呼んでも大丈夫？」

神無月「うん、大丈夫よ。」

鬼道「だつたら、帝国の仲間も誘うか。」

風丸「よし、来週行動開始だ。」

雷門イレブン「おお～」

北海道、白恋中

白恋の先生「吹雪お客さんだぞ。」

吹雪「お客さん？誰ですか？」

白恋の先生「懐かしの友達だ。」

吹雪「懐かしの友達？」「あの人かな？僕に用のある人かな？」

「？？？」「ああ、用があるから来たんだぜ。」

吹雪「その声って！？」

染岡「久しぶりだな。吹雪」吹雪「染岡くん、なんで白恋中に！？」

染岡「訳ありでな。」吹雪「キャプテンの誕生会？」

染岡「おう、友に雷門のユニフォームを着た仲間としてお前にも来てもらいてーんだよ。」

吹雪うん、僕も行くよキャプテンの誕生会に。」

京都、漫遊寺中

木暮「旋風陣、うつしつし

音無「調子良さそうね。」

木暮「春菜！？キャプテンの誕生日！？よしあの人は人を信じる大切さを学ばせてくれた、その恩返しだ。」

大阪

リカ「円堂の誕生日か~、ダーリンの頬みならえくで

一ノ瀬「サンキュー、リカ」

福岡、陽花戸中

立向居「ええ!!円堂さんの誕生日ですか!!もちろん俺も行きます。」

風丸「相変わらず円堂の事になると田の色が変わるな。」

沖縄、大海原中

綱海「円堂の誕生日俺も行くぜ。」

ライデン「俺もだ」

豪炎寺「ありがとう2人とも」

木戸川清修

西垣「ああ、俺も行くぜ。俺も円堂に借りがあるんだ。」

土門「頼むぜ、西垣。」

御影専農

杉森「もちろん俺も喜んで参加しよう。」半田「サンキュー、杉森。

帝国学園

鬼道「円堂の誕生会、来てくれるか!?」

源田「よし、俺たち全員で行くぜ。」

不動「俺たちのキャプテンの誕生会に参加しない訳いかねーからな。」

寺門「行くぜ。」

帝国イレブン「おう」「」

雷門中

鬼道「これで参加者は揃つた」

木野「後は円堂くんの誕生日を待つだけ。」

第6話円堂の誕生日 ラブリンの告白・・・・・?

円堂の誕生日の前夜、神無月家

神無月「明日が円堂くんの誕生日」

Prrrrr

神無月「中本さん!-?はい」

中本「ラブリン、『めんなさい』明日」

翌日

円堂「ここで俺の誕生日をやるのか!」

夏末「ええ、そうよ。後で神無月さんに感謝しなさい。」

円堂「もちろん。」

? ? ? 「僕も参加しよう。円堂くん」

円堂「アフロディイ! ?お前も参加してくれるのか!」

アフロディイ「ああ、君は神の力を使ってた僕の目を覚まささせてくれた、その恩を返しに来た。」

? ? ? 「僕たちも参加していいかな?」

円堂「ヒロト、緑川、砂木沼!あと南雲と涼野! ! !」

ヒロト「円堂くんじつはジェネシスからもう一人」

鬼道「お前はウルビダ! ?」

ウルビダ「私の本名は、八神玲名だ。」

ヒロト「玲名も僕たち同じ気持ちで来てくれたんだよ。」

円堂「ありがとう、玲名」

八神「フツ」

音無「キャプテン、カフェのテーブルに神無月さんからの手紙が!」

円堂「手紙?」

神無月からの手紙

「ごめんなさい、円堂くん私突然用事が出来たので来られないかも
しません。誕生会始め下さい。神無月愛」

不動「んで、始めるのかいキャプテン?」

円堂「俺、神無月を待つよ。」「

神無月の父、母「「え！？」」「

円堂「神無月は俺の誕生会のためにこのカフェを使わせてくれたんだ、だから待つよ。」「

不動「まつこれが円堂守だよな。」「

？？？「それでいいぞ守。」「

円堂「あつ、じつ、じいちゃん、ロロロ」「

ロロロ「久しぶり、守。」「

神無月の父「あの子、コトアール代表リトルギガントのキャプテン、

ロロロ「ウルバ！！」「

ロロロ「守、あつち。」「

円堂「え？あつフィディオ！！」「

神無月の母「今度はイタリアの白い流星フィディオ アルデナよー。」「

フィディオ「守、誕生会に来たよ。」「

円堂「ありがとう、フィディオ」「

フィディオ「みんな、来てくれ。」「

円堂「え？」「

ざつ

円堂「テレス、エドガー、マーク、ディラン、ローニージョ、来ててくれたのか。」「

神無月の父「FFで活躍したスター選手だ。」「

財前総理「やあ円堂くん」「

搭子「円堂、誕生おめでとう。」「

円堂「財前総理に搭子！」「神無月の父「総理大臣が来るなんて円堂

くんすごいんだ。」「

一方神無月 愛は

フットボールフロンティアスタジアム

チアガール「ファイト、ファイト、レッツゴー」「

ラブリン「待ってね、円堂くん」「

その夜

撮影監督「はい、お疲れ」

ラブリン「お疲れさまでした。」

中本「ラブリン、急いで。」

神無月「ごめんな、円堂くん。」

神無月のカフH

神無月「もう、終わっちゃった。」

ガチャ

円堂「待つてたぜ、神無月。」

神無月「え？ 円堂くん、みんなもなんで？」

風丸「円堂の希望だ。」

神無月「ありがとう円堂くん、私、みんなに話をなきやならないことがあるの。」

円堂「え？」 神無月「私ラブリンは、本当はラブリンなの…」 西垣
「ラブリンって話題のスーパーアイドルか！？」

杉森「ああ、そうだが。」

神無月「隠していてごめんなさい、私前の中学校でまともに話が出来る友達がいなかつたの。だから円堂くんたちと友達になりたくて雷門中に入ったの、だから私がラブリンだって事黙つてれば友達でいてくれると思ってたのでもそれが逆に苦しくなつて、でも苦しくなるなら私がラブリンだって事話たほうがいいと思ったの…」

木野「神無月さん」

豪炎寺「やはりな」

円堂「豪炎寺、お前知つてたのか！？」

豪炎寺「少しずつな」

土門「俺、全くしらなかつた。」

豪炎寺「だが円堂、後はお前に任せる。」

円堂「え？ 俺が！？」 豪炎寺「神無月は、お前の誕生日に告白して来た。だからお前が決めるんだ。」

神無月「今まで隠していて、本当にごめんなさい。」

円堂「神無月、顔上げなよ。」「俺、その事はどうでもいいと思つ。」

」

神無月「え？」

円堂「俺たち友達だろ、君がクラスメートだとしてもスーパーアイドルとしても友達って事に変わりはない。」

神無月「！」

豪炎寺「ああ、その通りだ円堂。」

鬼道「お前ならそう言うと思ったよ。」

壁山「キャプテンの言う通りシス

栗松「俺たちは雷門の仲間でヤンス」

音無「水臭いですよ、神無月さん」

夏末「誰にでも秘密はあるものよ。」

木野「特に女の子はね。」

神無月「ううう」

円堂「みんな、神無月の秘密は、サッカーをやつてる俺たちの秘密にじょうげ。」

参加者「「「おお～」」」

神無月「いいの？」

円堂「ああ！」

中本「良かつたわねラブリンク」

神無月の母「本当にいいお友達ができる。」

神無月の父「円堂くんサイコー」

参加者「「「ハッピーバースデー円堂くん、円堂、円堂さん、守、

キャプテン、守くん」」

円堂「サンキューみんな」

第7話 夢の共演 海賊の宝探し

雷門中

染岡「ドリゴンスレイヤーV3」

円堂「ゴッドキャッチャG3」

一ノ瀬「ナイス円堂」

木野「ん!? あれは。」

音無「ラブリンのワゴン車のようですがビー?」

ラブリン「こんにちは、円堂くん」

円堂「よう神無、じゃなくてラブリン」

木野「気を付けてね、円堂くん。神無月さんがラブリンだつて事は私たちの秘密だから。」

円堂「ああ、気を付けないとな。」

鬼道「それでなんの用でここに来た?」

ラブリン「次の土曜日、海賊の宝探しの撮影をやるの、そこで私のお供になる6人を集めてるの。それで私の推薦で雷門中に来たの。」

豪炎寺「だつたら、俺たちの推薦は、円堂だな。」

円堂「ええ、俺が!?' 韶木「ほほーー円堂か。俺も推薦だな。」

円堂「響木監督、豪炎寺、ああ、俺、行くぜ。」

ラブリン「一人目決まりね。あとは東京もう1校、北海道、沖縄、九州、大阪のお供ね。」

鬼道「東京のもう1校は俺が推薦した。」 ラブリン「え?」

鬼道「そこは、帝国学園だ。」

帝国学園

佐久間「あれは、鬼道それにラブリン。」

源田「海賊の宝探しの撮影か。それで1人推薦しに来たのか。」 鬼

道「ああ、誰か1人選んでくれ。」

不動「だつたら、俺は佐久間を選ぶぜ。」

佐久間「俺が!?'」

不動「ああ、鬼道の信頼が厚く円堂との信頼もあるからな。」

寺門「そうだな、俺も佐久間を推薦だ。」

佐久間「お前たち、 ああ」

「

北海道

吹雪「僕が宝探しお供に！？」

ラブリン「ええ、染岡くんの推薦で吹雪くんを選んでくれって」

吹雪「うん、僕行くよ、キャプテンと共に。」

大阪

リカ「ダーリンがウチを！？」

ラブリン「一ノ瀬くんがリカさんつて」

福岡

立向居「円堂さんと宝探し！！本ですか！？」

ラブリン「円堂くんの推薦で立向居くんを選んだの。」

立向居「俺、絶対に行きます。」

沖縄

綱海「そりやあすげーな。海賊の宝探し！..！」

ラブリン「円堂くんの推薦です。」

綱海「オッシャー、ノッテきたぜ。」

そして土曜日、港

円堂「いよいよ出発だな。」

吹雪「うん、僕も早く行きたいよ。」

鬼道「佐久間、円堂の事頼んだぞ。」

佐久間「任せろ、鬼道。」

綱海「オッシャー、ノッテきたな、立向居。」

立向居「ハイ！俺も皆さんと新たな冒険に行くのが楽しみです。」

リカ「ダーリン、ウチの事思つて待つてや。」

一ノ瀬「あ、ああ～待つてるよ。」

ラブリン「そろそろ出発します、船に乗つて下さい。」

円堂「んじゃ、行つて来るぜ。」

佐久間「出発したな円堂。」

「

円堂「ああ。」

日曜日

ラブリン「それじゃみんな、冒険用の服に着替えて。」

吹雪「本格的だね！」

円堂「いよいよ冒険の始まりだ、さあ、行こうぜ、宝探しの冒険へ。」

「

第8話冒険、宝を上回る物

ラブリンの頼みで宝探しの撮影にお供になつた円堂たち
ラブリン「今日私たちは仲間と共に海賊が残した宝探しに来ました。」

佐久間「あの島のようだ。」

円堂「さあみんな、俺たちの冒険の始まりだ。行こうぜ!..」

冒険者「「「おお~」」」

そして島に上陸

立向居「大きい島ですね。」

リカ「いかにも何かありそうや。」

ラブリン「さあ、行きましょう。」

島を歩いて3時間後

綱海「お、あそこに洞窟があるぜ!..」

ラブリン「あそこが海賊の宝が眠つてる洞窟です。」

吹雪「ここから宝探しのスタートだね。」円堂「よし、行くぜ。」

佐久間「中は思つた以上に暗いな。」

円堂「ん!..」

吹雪「どうしたの、キャプテン?」円堂「なんか、すゞい音がガアアアア

円堂「危ない!..みんな」

洞窟の外

撮影監督「た、大変だ!! 洞窟が崩れた!!..」

スタッフ「入口がふさがつて入れないですよー」

撮影監督「よし、別の所から入ろう。」

スタッフ「ハイ!..」

洞窟の中

円堂「みんな、大丈夫か!..?」

ラブリン「ええ、私は大丈夫よ。」

吹雪「みんな、無事みたいだね。」

佐久間「だが、入口がふさがってしまった、これでは出られないぞ。」

「ラブリン「私が、みんなを誘つたから。」

綱海「んなこと言つても仕方がねー、入口がダメなら出口を探せばいいんじゃねーか？」

円堂「綱海の言う通りだ最後まで希望を失つてわいけないんだ。」

ラブリン「円堂くん、綱海くん、みんな、うん」

吹雪「キヤプテン、今は宝探しをやつてる場合じやない、みんなで悪い状況を乗り越えよう。」

希望を捨てず歩き続ける円堂たち

立向居「だいぶ歩きましたけど、何も変わりませんね。」

佐久間「ああ、だがこの先何か起こるか分からぬ気を付けろ。」

円堂「どわっ、ー！」

ラブリン「どうしたの？円堂くん」

円堂何かに足躊躇いた。んー？」「

ラブリン「きやあああ！！」

綱海「ガ、ガイコツだ！！」

吹雪「このガイコツ、海賊の服着てるけどー！？」

佐久間「どうやら昔、海賊の宝を探しに来て出られなくなり、こうなつたらしいな。」吹雪「でも僕たちはこうなる訳にはいかない。」

円堂「ああ、みんなと約束したんだ。必ず帰るって、だからこそあきらめてダメだ。」

立向居「円堂さん、あそここの奥に光が見えます！」

円堂「本当か！？立向居。」

「外が見える！」

綱海「だが、どうやってこの岩を？」

吹雪「そうだ！！確かにみんなアイテムにサッカーボールがあるよ、僕たちの必殺技でこの岩を壊そつ。」

佐久間「ん！？なんだ！？」

円堂「どうした！？ 佐久間

佐久間「しつ！ 何か聞こえて。」

ゴロゴロ

綱海「げつ！！ 岩が転がってきやがった！！」

円堂「任せろ、真ゴッドハンド」

綱海「よし、やるぞ、ツナミブースト」

リカ「ローズスプラッシュ」

円堂「爆裂パンチ」ラブリン「せやああーー！」円堂「し、しました。」

立向居「ムゲン・ザ・ハンドG5」

円堂「立向居！」

立向居「円堂さん、ラブリンさんは俺に任せて綱海さんたちと出口を開いて下さい」

円堂「でも」

立向「俺は大丈夫です、早く」

円堂「わかった、頼むぞ。立向居」

ラブリン「今度はかなり大きい岩が！」

立向居「絶対にラブリンさんを守ります、魔王・ザ・ハンド」

佐久間「あ！ 出口がかなり広くなつた。」円堂「一気に行くぜ、みんな、メガトンヘッドG3」

佐久間「皇帝ペンギン1号」

綱海「ザ・タイフーン」

吹雪「ウルフレジェンドG2」

リカ「通天閣シュー！」「

バーアン

円堂「今だ！！」

ハウ ハウ ハウ

円堂「みんな、無事か！？」

佐久間「ああ」

撮影監督、スタッフ「オ、イみんな、」

ラブリン「あ、監督」スタッフ「良かつた、みんな無事みたいで。」

ガアアア

撮影監督「出口もふさがっちゃった。」

冒険者「「「 プツあははは」」

そして日本に戻つて

司会者「それでラブリンさんたちは宝を見つけられなかつたのですね。」吹雪「そうだ！！確かみんなアイテムにサッカーボールがあるよ、僕たちの必殺技でこの岩を壊そつ。」

佐久間「ん！？なんだ！？」

円堂「どうした！？佐久間」

佐久間「しつ！何か聞こえて。」

ゴロゴロ

綱海「げつ！！岩が転がつてきやがつた！！」

円堂「任せろ、真ゴッドハンド」

綱海「よし、やるぞ、ツナミブースト」

リカ「ローズスプラッシュ」

円堂「爆裂パンチ」

ラブリン「きやああ！！！」

円堂「し、しまつた。」

立向居「ムゲン・ザ・ハンド」

円堂「立向居！」

立向居「円堂さん、ラブリンさんは俺に任せた綱海さんたちと出口を開いて下さい」

円堂「でも」

立向「俺は大丈夫です、早く」

円堂「わかつた、頼むぞ。立向居」

ラブリン「今度はかなり大きい岩が！」

立向居「絶対にラブリンさんを守ります、魔王・ザ・ハンド」

佐久間「あ！出口がかなり広くなつた。」円堂「一気に行くぜ、みんな、メガトンヘッドG3」

佐久間「皇帝ペンギン1号」

綱海「ザ・タイフーン」

吹雪「ウルフレジュンドG2」

リカ「通天閣シユート」

バー・アン

円堂「今だ！！」

ハア ハア ハア

円堂「みんな、無事か！？」

佐久間「ああ」

撮影監督、スタッフ「オ、イみんな、」

ラブリン「あ、監督」スタッフ「良かつた、みんな無事みたいで。」

ガア・アア

撮影監督「出口もふさがっちゃった。」

冒険者「「「 プッあははは」」

そして日本に戻つて

司会者「それでラブリンさんたちは宝を見つけられなかつたのですね。」

ラブリン「ハイ、ても宝よりも素敵な物見つけました。」司

会者「え？」

ラブリン「ね！」

円堂「ああ。」

佐久間「ウム。」

リカ「ええ。」

吹雪「うん。」

立向居「ハイ。」

綱海「おう。」

6人に新たな友情が芽生えた。

オリキヤラ設定 ?（前書き）

オリキヤラその3

名前 ロン・スコーピオン

特徴髪は金髪のオールバック。一筋の光も通さない暗い瞳
イナズマ王国『作者オリジナル国』の城の裏にある洞窟に住んでいた少年。裏閻族と言われている。気まぐれ好きの王様に国を追い出されて王様を憎みサッカーで復讐をするダークマップのキャラクター

ポジション、FW

必殺技 ダイナマイツショート、ダークインパクト、ジャックスルーピオン

年齢 14歳

オリキヤラその4

エミリア姫

特徴髪は薄茶色。ストレートのロング。目の色は黄緑色

王様の娘でイナズマ王国の姫

年齢 18歳

いい加減で気まぐれ好きの父親に手を焼いている。国を乗っ取つてゐるダークマップに勝利してほしく円堂たちにイナズマ王国の未来を託す。

オリキヤラその5

ルイ大王

イナズマ王国の王様王国の平和好きでとても気まぐれな王様
年齢 50歳

オリキヤラ設定 ?

オリキヤラその1

名前 神無月 愛かんなづきあい

性別 女

特徴、瞳の色は薄い水色、髪の毛の色は濃いピンク、髪の毛は肩ぐらい、

設定、日本中で話題のスーパーアイドル

年齢は14歳、雷門中学に転校してきた中学一年生、クラスは円堂と同じ、アイドル登録名はラブリン

オリキヤラその2

名前 杉村 メロディース

性別 女

アメリカ人と日本人のハーフでドイツからの留学生、まつすぐであきらめない気持ちが強い円堂守に憧れている中学一年生。黒くて、ねこみみみたいな物がある帽子を被つたいる（たまごつちのメロディーつちと同じ）世界で有名なバイオリスト

第9話 真実の石版 テルリン誕生

鬼道家

鬼道「父さん、それは？」

鬼道の父「この間仕事で撮つた写真だ。」

鬼道「いろんな所が映つていますね。ん！？」

鬼道の父「どうした？」

鬼道「この写真に映つてゐるこれは？」

鬼道の父「これは、真実の石版だ。」

鬼道「真実の石版？」

鬼道の父「昔、どこかの外国で合つたらしい。」

雷門中

円堂「真実の石版！？」

鬼道「ああ、昨日父さんが撮つた写真に映つてたんだ。」

豪炎寺「俺も聞いたことある。たしかかの森にあると。」

円堂「なあ、俺たちも行って見ないか？」

かしかの森

円堂「この森に真実の石版があるのか。」

鬼道「ああ、この森にあるのはたしかだ。」

豪炎寺「円堂、あれは！？」鬼道「あれは！真実の石版がある岩場

！」

円堂「ここが、写真に映つてた石版の岩場

豪炎寺「だが、真実の石版はないようだが？」

円堂「鬼道！？あれは！？」

ゴオオ

鬼道「あれは、真実の石版、何だこの風景は！？」

円堂「何だつたんだ！？今のは！？」

豪炎寺「わからない！？だが今の時代じゃなさそうだ。」

円堂「じゃあ、俺たちは過去の映像を見たのか！？」

鬼道「今のは一体！？」

東京の河川敷

ラブリン「ありがとうー！」これからも私を応援してね～。」

中本「お疲れ様、ラブリン。次はドラマの撮影よ。」

ラブリン「ハイ、頑張ります。」

ピロロロロロン

ラブリン「あ、パパからかしか？あれ、誰からかしか？受信メール！？」

その夜

ピロロロロロン

神無月「また受信メール！？もしかして、故障！？明日直して上げるね、テルリン」

次の日

神無月「あ～。ん！？また受信メール？何コレ」

円堂「なんか昨日見た風景が夢に出てきたんだ。」

豪炎寺「お前もか？」

円堂「豪炎寺も見たのか！？」

鬼道「俺もだ。」

円堂「俺たち、3人だけか！？」

神無月「あ、円堂くん」

円堂「神無月！？散歩か！？」

神無月「うん、ちょっと携帯を直しに。」

鬼道「携帯、壊れたのか？」

神無月「うつん、なんか変なメールがはいって」

円堂「変なメール？」神無月「コレよ。」

豪炎寺「これは！－真実の石版！？」

神無月「真実の石版！？」

真実の石版の事を話した。

神無月「じゃあ、私の携帯にそんな事が？」

豪炎寺「おそらくそうかも知れない。」

神無月
私をその眞実の石版の所に連れてつて。

鬼道 -えー！？』

神無用 - 私、見てみたいの、その眞実の石版

再びかしかの森

「ああ、お前がやるんだ！」

鬼道が、眞実の石版がないぞ！」

母のメーラーが迷ひがちで物足りない

豪炎寺「おかしい？昨日は確かに合つたはず。

田堂「それって、眞実の石版のコレか!?」

虎丸　あー！！！ハハ それです

? ? ? 「 キヤプ て ン) ?

「円堂くん！」

「ハハ、おのれの娘がお出でなさいました。」

ヒロト「俺のもだ。」「

卷之三

？？？「田舎くん。」

アフロテイ!

「アフロディテはお嬢様ですか？」

アフロディ「ああ、僕だけでなくデメテルにヘラもだ。」

ガアアアア

円堂 あれば、眞実の石版！！

神無用「あれか!?」

「わらわのう！」

豪炎寺「円堂！？あつ！？」

選ばれし者「あああ」

神無月「うへん、ijiはー？あつー円堂くん、しつかりして、円堂くん」

円堂「あつ、神無月。はつ、ijiは俺が夢で見た森ー！神無月、みんなは！？」

神無月「わからない！？私が目覚めたら、円堂くんが倒れてたから。」

円堂「そうか、豪炎寺、鬼道！？」

神無月「みんな、一体どこに！？」

？？？「落ちこんでる時間はないよ、愛。」

神無月「えつ！？誰？」

？？？「さあさあ、早く！」んな所抜けよつ。」

円堂「携帯が！？」

神無月「テルリンが口を動かしてしゃべつてるー！」

突然真実の石版に吸い込まれた円堂たち、ijiの先どうなるー？

第10話過去のイナズマ王国 登場ダークマップ

真実の石版に吸い込まれ過去に飛ばされた円堂たち

虎丸「豪炎寺さん、ここは一体どこなんでしょう！？」

豪炎寺「わからない、だが今は円堂たちを探すのが先だ。」

別の場所

デメテル「なあ、アフロディイ、ここは本当に日本ではなさそうだ。アフロディイ「そうだね。でもはぐれたみんなを探そう。」

一方、円堂たちは

神無月「でもなんでテルリンがしゃべれるの…？」

テルリン「私、バージョンアップしたのかも？」

神無月「それはないと思うよ。」

円堂「だがなぜ神無月の携帯が動いてしゃべれるようになつたんだ！」？俺の携帯はなんの変化も無いけど。

神無月「一先ずここにいてもしかたないし、みんなを探しに行こう。」

「

とある城

エミリア姫「この国が乗つられるのも時間の問題かもしれません、一体どうすれば…？」

ルイ大王「ここは方法は一つ。」

エミリア姫「何か名案でも！」

ルイ大王「我々が逃げるんじゃ！」

エミリア姫「それでは、何の解決にならないのでは…？」

ルイ大王「まあ、やつたて勝てる訳無い。」

城の中庭

エミリア姫「真実の石版、どうか私の願いを聞いて下さい、お父さまとも頼りなく私が望むのは選ばれし勇者だけ。お願いします。」

ピロロロロロン

円堂「あー…メールだ！」

神無月「テルリンもなつてる！」

円堂「豪炎寺かもしれない」

テルリン「違うみたい。」

円堂「えつ！？じゃあ、誰から？」 テルリン「選ばれし勇者様イナズマ王国を救つて下さい。エミリア姫」

神無月「エミリア姫！？エミリア姫てつ、昔の人のはず。」

円堂「じゃあ、俺たちはタイムスリップしたてつことか！？」

神無月「でもこのメールの意味は一体！？」

円堂「神無月、あれを見る。」

神無月「あれは、お城！？」

円堂「みんな、あの城にいるかもしれない。行こうぜ、神無月、テルリン」

一方、豪炎寺たち

豪炎寺「あの城に円堂たちが来てるかもしれない。行くぞ、虎丸。」

虎丸「はい！豪炎寺さん。」

そして鬼道たち

寺門「鬼道、あそこに城が！」

佐久間「行こうぜ、鬼道」

鬼道「ああ、円堂たちが来てるかもな。」 飛鷹「あの城にキャプテンが！」 その頃、城では

兵士「王様ー」

ルイ大王「どうした？」

兵士「なんか、未来から來たと言つてた奇妙な2人組でして！」「エ

ミリア姫「未来から來た！？」

ルイ大王「まあ良い、通すが良い。」

そしてその2人組が来て

ルイ大王「そなたたちが未来から來たと申す者が？」

円堂、神無月「ハイ」 ルイ大王「まず、レディーファーストからじや。名は何と申す！？」

神無月「神無月 愛と申します。」

ルイ大王「ああ、顔を上げて」うん。」

神無月「ハイ」

ルイ大王「ほお！かわいい顔だの～」

神無月「あつ、ありがとうござります～」

ルイ大王「んで、そちらの者は？」

円堂「円堂 守です。大好きな物は、サッカーです。」

エミリア姫「（サッカー？）」

ルイ大王「それで、何しに未来から？」

神無月「それは、メールで」

エミリア姫「メール？」

円堂「手紙みたいな物です。」

ルイ大王「それで、未来で何があるのかな。教えて、教えて」

エミリア姫「お父さま」

テルリンク「うーー、眞面目に聞きなさい、でないとお仕置きしたやうから。」

ルイ大王「おお、ちつこくてかわいいの～」

円堂「なんか話が進まないなあ。」

エミリア姫「円堂さん、神無月さん、よろしければ来て下さい。」

円堂、神無月「？」

エミリア姫「ここです。」

円堂「これは、眞実の石版！！」

エミリア姫「やはり、あなたが私の願いで来ててくれた選ばれし者なのですね。」

神無月「円堂くんが選ばれし者！？」

エミリア姫「はい、このイナズマ王国は、悪者に乗っ取らてしまつんです。」

円堂「ええ！？」

神無月「なんてヒドイ事」

円堂「一体、誰が！？」 エミリア姫「悪のグループ、ダークマップです。」

円堂「ダークマップ！？」

神無月「闇の地図でつことですね。」

エミリア姫「ハイ、ダークマップは、ある球技でこの世界を乗っ取つているんです。」神無月「ある球技？」エミリア姫「それは、サッカーです。」

円堂、神無月「サッカー！！」

エミリア姫「ダークマップは、乗つ取る国の人たちと試合で勝つとその国を自分たちの物にしてしまいます。平気で人を倒したり、ケガさせたり。この国のサッカーブレイヤーたちは、逃げてしましました。だから私は真実の石版に頼んで選ばれし勇者様を呼んだんです。」神無月「だから、佐久間くんやアフロディイくんのようなブレイヤーたちが来たのね！？」

円堂「許せない。」

エミリア姫「えつ！？」

円堂「サッカーでそんな悪い事に使うなんて、俺は絶対に許せない。」

神無月「円堂くん」

円堂「エミリア姫！」エミリア姫「ハイ！！」

円堂「話は分かりました。俺たちがダークマップと戦います。」エミリア姫「本当ですか！？」

円堂「神無月、豪炎寺たちを探しに行こう。」

兵士「王様、また未来から来た者が3人もきました。」

鬼道「なかなか良い城だ」

円堂「鬼道ー」

鬼道「円堂、神無月」神無月「佐久間くんも寺門くんも無事だったのね。」

佐久間「ああ、豪炎寺たちは？」

神無月「一緒にやなかつたの。」

テルリン「大丈夫、他のみんなも無事よ。」鬼道「この携帯、確かに神無月の！？」

神無月「この世界に来て生き物になつたの。」

寺門「まさかテルリンは、警察だつたのか！？」

佐久間「そんな訳無いだろ、確かに似てるけど。」

？？？「円堂、円堂くん、キヤプテン」

円堂「あつ、豪炎寺、虎丸、アフロティ、デメテル、ヘラ、ヒロト、

飛鷹！」

飛鷹「キヤプテン、無事でしたか。」

円堂「みんな、来てくれ！」

中庭

ヒロト「要するに俺たちがこの国を救う勇者って訳か！？」

円堂「俺はダークマップのサッカーが許せない。みんな、俺に力を貸してくれ！」

豪炎寺「円堂、俺たちがここにいるのは、ミリア姫に選ばれたからだ！」

円堂「豪炎寺」

虎丸「キヤプテン、豪炎寺さん、俺も戦います。」

飛鷹「キヤプテン、俺の命、キヤプテンに預けてあります。」

鬼道「みんな同じ意志だ。」

円堂「サンキューみんな、絶対勝つぞ、ダークマップ！」

選ばれし者「「おお～」」

町の人「だつ、ダークマップだ！」

ヘラ「何！？」

ヒロト「来たのか！」「？？？「オラオラオラ、ルイ大王、出てこい。」

「ルイ大王「わつ私になんの用だ！？」

？？？「どぼけるなー、このイナズマ王国も俺たちダークマップが支配するぜ。」

円堂「待て！」

？？？「何だキサマ！？」「ミリア姫「私が呼んだ選ばれし勇者様

よー！」

？？？「こいつらが勇者！？肩腹痛てーぜ。こんなヤツらがこの俺、

ロン・スコープオン様のいるダークマップと戦うのか！？」

円堂「俺はお前たちのサッカーが許せない。お前たちを倒しイナズ
マ王国を救つてみせる。」

ロン「ほお、じゃあ俺たちサッカーでキサマラの潰してやるよ。ぜ
つて一王様をサッカーボール的にしてやるよ。」

鬼道「（なぜあんなに王様を憎むんだ！？）

悪のグループ、ダークマップと試合することになった円堂たち。果
たして勝つ事が出来るのか！？

第11話 対決 ダークマップと懐しみの過去

イナズマスタジアム

円堂「さあみんな、この試合はただの試合じゃない！」

鬼道「ああ、この国の未来が懸かってる事だ。」

円堂「勝つぞ！」

選ばれし者「「「オオ～」」」

未来の戦士

FW

豪炎寺

虎丸

デメテル

MF

鬼道

アフロディ

佐久間

ヒロト

D F

飛鷹

ヘラ

寺門

G K

円堂

ダークマップ

FW

ロン

レノン

ライン

MF

ワイルズ

ジェイ

デイブ

D F

ピート

カン

バクラー

ケビン

G K

ゲープ

エミリア姫「（丹堂さん、みなさんお願ひします。）」

ロン「あんなヤツらに俺たちが倒せる訳が無い。」

ジュリー「あ、始まりました。実況はこの私ジュリーでお送りいたします。

さて、我がイナズマ王国の懸けた戦い。まもなくキックオフです。」

ピィィィィィ

ジュリー「始まりました。」

鬼道「デメテル！」

ロン「潰してやるよ。ピート、ライン」

ピート、ライン「オウ、うおおお」

デメテル「ダッシュコストーム！」

ピート、ライン「ぐああーー！」

ロン「なに！？」

ジュリー「何とダークマップのティフーンスを突破しましたーー！」

王国の人A「すごい」

王国の人B「これは、もしかしたら。勝てるぞーー！」

ロン「たかが突破したくらいではしゃぎやがって。」

デメテル「豪炎寺！」

豪炎寺「オウ、爆熱ストームGG3」

ゲープ「なにーー！」

円堂「よし！決まった。」

ゲーブ「うわわわ、フツな～んてな」

バシンツ

豪炎寺「なつ！..」

虎丸「爆熱ストームを余裕で！」

ゲーブ「未来はこんなシユートにびびってるのか。」

円堂「くつ！」

虎丸「タイガードライブ」

バシンツ

ヒロト「流星ブレード▽3」

バシンツ

デメテル「うおおお、リフレクトバスター」

バシンツ

鬼道、佐久間「ツインブースト」

バシンツ

寺門「百烈ショット」

バシンツ

ジュリー「未来の戦士、シユートが決まりません。」

ゲーブ「お前ら、そろそろ点取れよ。」

ロン「言わねなくとも取つてやるよ。」

ジュリー「ついにダークマップの攻撃が始まりました！..」

ケビン「ワイルズ！」

鬼道「ヒロト、寺門」ヒロト、寺門「おお」

ワイルズ「フツ、カマイタチ」

ヒロト「ぐあ、なに！？」ジュリー「ダークマップの逆襲です。末来は戦士のゴールに襲いかかります！」

ワイルズ「ロン、決める。」

ロン「ああ、くたばりな、ダイナマイトイシユート！」

円堂「絶対に入れさせ無い。真ゴッドハンド！」

シユウウ

ロン「なに！？」

エミリア姫、神無月「「やつた」」

円堂「いけ！」

鬼道「真イリュージョンボール、豪炎寺！」

豪炎寺「真爆熱スクリュー！」

ゲープ「さすがに素手じゃ無理だな。デビルファング」

ガアア

飛鷹「何だ!? 今の技」

アフロディ「真ゴッドノウズ」

ゲープ「デビルファング」

鬼道「皇帝ペンギン」

佐久間、寺門「2号」

ヘラ「ディバインアロー改」

虎丸「タイガー」

豪炎寺「ストーム」

ゲープ「デビルファング」

神無月「なんて技なの」

ゲープ「ムダムダ、ロン」

ロン「今度こそ、ダークインパクト」

円堂「止めてみせる。マジン・ザ・ハンド」

ガシツ

ロン「くつまたしても」

ピイ、ピイイ

ジユリー「ここで前半終了です。」

鬼道「思つたより強いな。」

円堂「ああ、だが俺たち負ける訳にはいかない。絶対に勝つてイナ

ズマ王国を救うんだ！」

選ばれし勇者「「オウ」」

ロン「くそー、」

バクラー「まさかお前が点が取れないとはな。」

ロン「まぐれだ、ぜつて一潰す。」

「

ジユリー「後半戦が始まります、勝利を手にするのは、どちらのチームか!?」

第11話 対決 ダークマッシュと憎しみの過去

?

ジュリー「ああ、後半戦が始まります。先に1点を取るのはどうが
のチームなのか！？」

ピィイ

ロン「レノン」

レノン「パワー・ホイール！」

円堂「はあ、正義の鉄拳G5」

ばああん

レノン「くそー、この技も。」

円堂「いけー、虎丸」

虎丸「行きます、グラディウスアーチー！」

ゲープ「次はこの技でいくか、シャドークローー！」

スウ、バシ

虎丸「何！？」

ゲープ「ぬるいぬるい！」

ヒロト「天空落とし」

ゲープ「シャドークローー！」

スウ、バシ

ヒロト「くそー。」

ゲープ「カン」

カン「デイブ」

デイブ「やれ、ロン」

飛鷹「行かせるか、真空魔V3」

ロン「ああ！」

飛鷹「豪炎寺！」豪炎寺、虎丸、ヒロト「グランドファイアG2」

ゲープ「ほお、少しばらぎな技があるんだな。なら、シャドーファ
ング！」

豪炎寺「何！？」

ヒロト「何があの必殺技は！？」

ゲーブ「フツ、俺の究極の技シャドーファングだ。やれ、ワイルズ」

ワイルズ「ジェイ」

ワイルズ、ジェイ「アナコンダアロー」

円堂「いかりのてつつい↙2」

がん

ジェイ「チツ」

ヘラ「アフロティ」

アフロティ「ヘブンズタイム改」

ピート、カン「うわああ」

アフロティ「行くぞ、ゴッドブレイク」

ゲーブ「シャドーファング」

ジュリー「未来の戦士、シユート何度も打ちます、しかし、の技が
破れない。」

ライン「ミサイルショット」

円堂「真イジゲン・ザ・ハンド」

ロン「やろー」

円堂「こんなサッカーやって楽しいのか！ロン！」

ロン「何！？」

円堂「お前たちがやつてるサッカーが間違ってる、こんなサッカー
したつて楽しく無いだろ！」

ロン「うるさい！！お前らなんかに、この国を追い出された俺たちの
辛さが分かるか！」

豪炎寺「この国を追い出された！？」

鬼道「どういう事だ！？」

ロン「聞きたいみたいだな？いいだろ。俺たちはもともとイナズマ
王国の住人だつた！」

神無月「ダークマップが、イナズマ王国の住人！？」

テルリン「いつたい、何があつたの！？」

ロン「俺たちは、生まれた時から城の裏の洞窟に暮らしていた、俺

は、裏闇族と呼ばれていた。」ルイ大王「裏闇族？あつ！」

ロン「すべては、あの気まぐれ王がいけなかつた。あれは忘れもない9年前」

9年前

ロン、5歳「楽しそうだな。」

ロンの母「ロン、何見てんの？」

ロン、5歳「母さん、僕もあの子たちとサッカーやりたい。」

ロンの母「ダメよ。」

ロン、5歳「なんでだよ！？なんでダメなの！？」

ロンの母「王様の気まぐれよ。」

5ヵ月後

ロン、5歳「母さん、しつかり。」

ロンの母「ロン、元氣で」

ガクッ

ロン、5歳「母さん！」「母さんが死んで僕は1人ぼっち、僕はどうすれば、ん？」

ロン「母さんを失つて、その時見つけたのが。」

ロン、5歳「サッカーボールだ！」バシッ

ロン「初めてボールを蹴った時はとても楽しかつた、そして俺の前に現れたのは、ゲープたちだ。」

ロン、5歳「みんな、サッカーやるー」

ロン「だが」

ルイ大王、41歳「裏闇族を追い出すのだ。」

兵士「裏闇族、お前たちを追放する。」

ロン、5歳「何で僕たちが出て行かなきやらないの！？」

ルイ大王、41歳「お前たちがサッカーやつてるからじや。」

兵士「出て行けー」

ロン「俺たちがサッカーやつてはいけないのかよ。だつたら、俺たちがサッカーで復讐する。」

そして、現在

ロン「そして俺たち、ダークマップが誕生した訳だ！」

エミリア姫「お父さま、なぜサッカー楽しんでたダークマップを追い出したのですか！？」

ルイ大王「それは、私の気まぐれで。」

エミリア姫「その気まぐれでこんな事になつたんですよ！」

テルリン「ひどい王様」

円堂「だがなぜ他の国を襲つたんだ！？」

ロン「この国に恐怖を与える為だ。」

円堂「他の国やこの国をサッカーで襲うなんて。」

ロン「うるさい、お前たちに俺たちの9年前の過去が分かるか！」

円堂「ロン」「（そいつが、ロンたちはずっと苦しんでいたんだ！あの頃の楽しいサッカーを奪われて昔の自分を失つたんだ！）」

パンツ

ロン「ん？」

円堂「こい、ロン！お前の辛さ俺が受け止める」

ロン「なんだと、コイツ、俺をバカにしてるのか！」

バシツ

円堂「ドンドン打つてこい！」

ロン「このつ」

ルイ大王「何やつてるんだ彼は！？相手にボールを渡して！」

神無月「円堂くん、ダークマップの辛さを分かち合つているんです。」

エミリア姫「え？そんな事が出来るのですか！？」

神無月「円堂くんなら出来るんです。」

バシツ

円堂「ハアハアさあ！」、「お前の辛さ！」んなもんじやないはずだ！」

ロン「だまれ！うおおおーーー！」

鬼道「何だ！？」

ロン「くたばれ！ジャックスコーピオン！」円堂「！」のショート、止める！はあ、「ツドキヤツチ」うおおお

しゅうう

ロン「なつ！？」

レノン「なに！？」

ジュリー「止めた～、円堂くん、ジャックスコーピオンを止めました！！」

ルイ大王「すゞいぞお円堂くん～ところでエミリア姫、残った時間は？」

エミリア姫「あつ～あと3分しかありません～！」

ルイ大王「仕方ない、彼らには延長戦で頑張つてもらうしか！」

神無月「延長戦は必要無いと想います。円堂くん、やるかもしだせん。」

エミリア姫「やるつて何を？」

円堂「よ～し、行くぞ！」

ルイ大王「え？」

エミリア姫「え？」

王国の人たち「～～ええ～～！」

ジュリー「何と円堂くんオーバーラップ、ドリブルで上がつていたー！」

ロン「なつ、何だと！？」

ルイ大王「ゴールキーパーがオーバーラップって！？」

エミリア姫「これではゴールががら空き～！」神無月「これが円堂くんのサッカーです。」

エミリア姫、テルリン「え！？」

神無月「円堂くんは負けてる時、時間が無い時にやるんです。」エミリア姫「それではゴールが。」

神無月「わかっています。でも私は信じています、円堂くんたちならやつてくれるつて事を。」

エミリア姫「神無月さん。」

ロン「ヤロー、うおおおお、行かすか！」

円堂「くう～！」

ロン「お前らに、俺たちの過去の辛さが分かる訳がない。」

円堂「いや、分かる。」

ロン「なに！？」

円堂「お前達の時代に親を亡くした悲しみ、王への怒りも分かる。だが、サッカーで悪い事してるお前たちに負ける訳にはいかないんだ！」たあ」ロン「ぐあ、なんてパワーだ！？」円堂「鬼道、豪炎寺」

鬼道「イナズマブレイク▽2」

ゲーブ「シャドーファング、うつ！？ぐわわわ！？」

ピィィィィィ

ジュリー「ゴフ…」「ール…！何と、今まで1点も捕れなかつたゲー プからついに1点、これは希望の1点が捕れました！」

ロン「そつ！そんな！？」

ピィ、ピィ、ピィ

ジユリー「ここで試合終了！！勝つてのは未来の戦士、イナズマ王 国は救われました！！」

王国の人たち「「「うおお、わ～」「」」

ロン「行くぞ…」

ワイルズ「ロン！？」

円堂「待てよ、ロン」

ロン「なんだよ…」

円堂「本当は、お前も本当のサッカーがやりたいはずだ、思い出せ、お前たちが初めてボールを蹴った時を。」ロン「（本当のサッカー！？）そういえば初めてボール蹴った時はとても楽しかった、母さんを亡くした時も忘れるくらいに。だが、あの王が」

（お前たちの辛さ俺が受け止める）

ロン「はあ！円堂！？そつか。あいつ、俺たちの過去分かち合つた めに！　フツ、なあ円堂！？」

円堂「ん？」

ロン「人間は、変わる事が出来るよな！？」

円堂「え！？」

ロン「やつぱり俺たちじゃ、変わる事が出来ないのか！」

円堂「変わりたい気持ちがあればいつだって変わる事が出来るの！」

ロン「そうか、なあ円堂。もう一回試合やらないか？」

円堂「え！？」

ロン「これは国を乗つ取つるための試合じゃない、俺たちがあの頃に戻れための試合だ！！！」

円堂「よ～し、みんな、やるぞ～。」

選手たち「～～オオ～～～」

豪炎寺「はああ～～！」

ゲーブ「うおお～～！」

バシッ

ロン「ナイス、ゲーブ！」

ゲーブ「へへ、俺もいくぞ！」

ジユリー「なんと『ホールキーパー』、ゲーブオーバーラップ～～！」

円堂「だつた俺も」

ジユリー「また円堂くん、オーバーラップです。」

テルリンク「ホールキーパーのいなしサッカーなんて。」

神無月「聞いた事無いけど。」

エミリア姫「でも、楽しそうです。」

ルイ大王「え？」

エミリア姫「見て下さいお父さま、ダークマップの顔を。あの憎しみの顔してたダークマップが、あんな楽しそうにサッカーをしています。」

ロン「いくぞ円堂！」

円堂「こい、ロン」

ロン「（円堂、俺、思い出したよ。サッカーはみんなで戦う楽しい物だつて）はあ！」 シュ―

円堂「フツ、いいショートだ、ロン」

ピイツピイツピイイイイイ

ロン「ありがとう、円堂。お前たちのおかげで本当のサッカーと自

分を取り戻せる事ができた。」

円堂「ああ、だが取り戻せる事できたのは、自分の力だ！」

ルイ大王「ダークマップの諸君」

ロン「ルイ大王！？」円堂「まさか！待つて下さい、王様！ロンたちはせつかく本当のサッカーと自分を取り戻せたのに。」

エミリア姫「お父さま、円堂さんの言うとあります！」

ルイ大王「私は誰も処刑にすると言つておらん。」

エミリア姫「えつ？」ルイ大王「こうなつたのは私のせいだ、私が気まぐれだからこうなつたのだ。」

ロン「ルイ大王。」

ルイ大王「ダークマップの諸君、良かつたらまたイナズマ王国の住人にならんか？」

ロン「本當ですか！？王様」

ルイ大王「あつ、ありがとうござります！」

その夜の城

ルイ大王「君たちの勇姿は本当に素晴らしいかった」

選ばれし勇者「「「はい、ありがとうございます！」」スウ

円堂「あれは！真実の石版！？」

スウウウ

円堂たち「「「うはああ！」」

ロン「円堂！」

エミリア姫「元の時代に戻ったみたいですね。」

ロン「もう少し、あいつとサッカーやりたかったな。」

エミリア姫「ええ、そうですね。」

元の時代

円堂「ここは！？」

アフロディ「どうやら元の時代に戻ったみたいだね。」

ヒロト「なんか不思議だったね。」

ピロロロロン

テルリン「あつ、エミリア姫からメールだわ！」

神無月「読んで！」

テルリン「読むよ。勇者様、イナズマ王国を救つていただき本当にありがとうございました、あなた達の恩は忘れません。」

第1-2話留学 ドイツの天才バイオリニスト

河川敷の練習場

半田「真ローリングキック」

円堂「真熱血パンチ」

ガンツ

半田「あつ！」

木野「みんな、休憩時間よ。」

半田「よし、決めた！」

円堂「どうしたんだ半田！？」

半田「俺も新技を作るぞ！」

染岡「ほお、やる気満々だな！」

テルリン「相変わらず熱いね。」

音無「あつ！神無月さん！こんなにちはば。

壁山「仕事の帰りツスか？」

神無月「仕事と言つより、打ち合わせだったから。」

宍戸「新しい仕事が入つたんですか！？」

神無月「うん、確か日本に来る杉村メロディースのインタビューだったかな。」

夏末「杉村メロディースですって！？」

円堂「なんだ夏末、知つてるのか？」

夏末「円堂くん、やつぱり知らないのね。」

松野「杉村メロディースは世界で有名なバイオリニストだよ。」

円堂「へえ、そんなにすごいんだ。それでいつ来るんだ？」

神無月「今週の水曜日だよ。」

音無「今週ですか！？」

円堂「どんなヤツなんだろう。」

そして水曜日

関東空港

カメラマンA「お~い、来たぞ!!」

カメラマンB「あの子が天才バイオリニストの杉村メロディーヌか!?」

メロディーヌ「ここが日本、こんなに人が来るなんてミーは嬉しい。」

雷門中

円堂「おはよー、神無月は休みか?」

木野「円堂くん、忘れたの? 神無月さんはインタビュード休みよ。」

円堂「あつ! 忘れてた」テレビ局に向かう車

運転手「もう少しでテレビ局です。」

メロディーヌ「もし、うまくいけばあの人会えるかな?」

運転手「あの人?」

メロディーヌ「会った事無いからわからないの、でもミーひとつて会いたい人なの。」

テレビ局

ラブリン「もうすぐだと思つけど?」

プロロロオオオ

ラブリン「あつ! あの人杉村メロディーヌさん。あの。」

メロディーヌ「ん?」

ラブリン「初めて、ラブリンです。」

メロディーヌ「よろしく。」

夕方 豪炎寺の家

夕香「あつ、お兄ちゃんお帰りなさい。これからラブリンの番組が始まるよ。一緒に見よう。」

豪炎寺「ああ。」ラブリン「ここにちは、今日は日本に来たバイオリスト、杉村メロディーヌさんが来ています。よろしくお願ひします。」

メロディーヌ「杉村メロディーヌです、ヨロシク。」

ラブリン「早速ですが、日本に来てどう思つてますか!?」

メロディーヌ「日本の事よくわからぬけどドイツみたいにいい所

だと聞いています。」

メロディーヌへの質問もいよいよ最後になつた

ラブリン「では最後に何か言いたい事はありますか？」

メロディーヌ「言いたい事？ん~、じゃあ一つだけ。」

ラブリン「どうぞ。」

メロディーヌ「ミーには憧れている男の人がいるの。」

ラブリン「憧れている男の人！？バイオリニストですか？」メロディーヌ「ううん、その人サッカーやってた、でもミーが憧れている男の人はとてもまっすぐで諦めない気持ちが強くて物事深く考え無い男の人だつた。」

ラブリン「いつから憧れるようになつたんですか！？」

メロディーヌ「確かにあれはミーがドイツでバイオリンの予選で受かった後のことだよ。やつとミーが立ちたかつた舞台に上がるのにあまりの緊張でうまく引く事が出来なくなつたのだから諦めようとしてテレビをかけたのそしたら日本の番組で、あれ！？あのサッカーの大会なんだたかな！？確かに、フット・・・・・何だつたかな？」ラブリン「それって、フットボールフロンティアの事？」メロディーヌ「あつ！それそれ、そのフットボールフロンティアって大会で！確かあの人、かみなりかど中の人だつたかな？」

ラブリン「かみなりかど？」

メロディーヌ「対戦相手は、せんはねやまと対戦してた時」

ラブリン「せんはねやま？」

メロディーヌ「残り時間少なく1対0で負けていてかみなりかどのチームは諦めていたけど、その人がこう言つたんだ！」

ラブリン「なんて言つたんですか！？」

メロディーヌ「俺たちの本当の必殺技は最後まで諦めない気持ちなんだ！つて！」

豪炎寺「（今のセリフ、確か）」

メロディーヌ「その後、諦めなかつたからここまで来られたんだろ

！諦めたらそこで終わりなんだ！」の言葉でミーは決心したの…」

ラブリン「決心？」

メロディース「諦めないって！」

豪炎寺「（諦めない気持ち、あのセリフ、間違い無い…）」

ラブリン「その憧れている男の人、会った事無いんですね？」メ

ロディース「ええ、会った事無いよ。」

ラブリン「特徴は覚えてますか！？」

メロディース「確かに、オレンジのバンダナしてた。」

ラブリン「オレンジのバンダナ？」

メロディース「うーん、バンダナと言うよりヘアーバンドだったかな、後髪型は両サイドにサメのヒレって感じな。」

ラブリン「サメのヒレ？ヘアーバンド？はつ！」

メロディース「名前が分かればあんまり苦労しないのに。」

ラブリン「私、その人知ってる。」

メロディース「えっ！？本当にその人知ってるの！？」

ラブリン「ええ、その男の人、円堂守と言つて、雷門中サッカー部のキャプテンよ」

メロディース「円堂守、雷門中？」

ラブリン「あつーさつき言つてたかみなりかどつて、雷門中の事ですね。後言つてたせんはねやまは千羽山中の事ね！」

メロディース「後、大会決勝であれば、ようこ中ど。」

ラブリン「世宇子中ですね。」

メロディース「最初は3対0で負けていてボロボロなのに諦めず何度も立ち上がり逆転勝ちして優勝したの！やっぱり大切なのは、諦めない事だつて。」

ラブリン「ありがとうございました、それではまたお会いしましょう、さよなら」

控え室

中本「ラブリン、お疲れ様。驚きだったわね、バイオリニストの憧れでいる人が円堂くんなんて！」

神無月「でも分かるな。」

中本「えつ？」

神無月「私も、どんな時でも笑顔になれる円堂くんに憧れるから。」

テレビ局の外

メロディーヌ「へイ、ラブリン」

神無月「んつ！？」

メロディーヌ「ラブリン」

神無月「しー！今は神無月愛だから！」

メロディーヌ「じゃあ、愛って呼んでいいかな？」

神無月「いいよ」

テルリン「ちなみに私はテルリン」

メロディーヌ「ワオ。しゃべる携帯電話」

神無月「それで、何か用なの？」

メロディーヌ「あー…そうだ、哥ーは円堂守くんの家知ってる？」

神無月「知ってるけど、行きたいの？」

メロディーヌ「イエス」

住宅街

メロディーヌ「この辺に円堂守くんの家があるね。」

神無月「うん」

？？？「多分円堂はいないぜ。」

メロディーヌ「誰？」神無月「豪炎寺くん、半田くん！」

メロディーヌ「知り合いー？」

神無月「円堂くんと同じ、雷門中サッカー部の仲間よ。」

豪炎寺「よろしく。テレビ、見たぜ。」

半田「まさか円堂に憧れているとは思わなかつたよ。」

神無月「豪炎寺くん、円堂くん家にいなつてじう言つ事？」

豪炎寺「おそらく円堂は、あそこだ。」

メロディーヌ「あそこへ。」

半田「ここだよ。」

鉄塔

神無月「ここ！？よく見るけど、ここに円堂くんがいるの？」

豪炎寺「ここには円堂がサッカーの特訓をする所だ。」

メロディース「円堂守くんがここに！」

半田「あれ！？ 円堂、まだ来てないのか？」

メロディース「あの木にぶら下がってるタイヤは？」

豪炎寺「あれば、円堂がキーパーの練習をするためのタイヤだ。それを押して止めるんだ！」

メロディース「こんな風に？ それ！」

半田「そうそう、って危ない！ それは円堂しか

！！

メロディース「ウワアアア！…」

バシイイン

メロディース「んっ！？ あつ！」

？？？「大丈夫か！？」

メロディース「う、うん。」

半田「円堂！」

メロディース「えっ！？ コーが円堂守くん！？」

円堂「ああ、君がメロディースだな！」

メロディース「うん、ミーは杉村メロディース。円堂守くん、会えて嬉しい。」

円堂「そうだ、せつかく来たんだ。神無月もテルリンも初めてここに来たんだろ！？」

神無月「うん？」

テルリン「それがどうかしたの？」

円堂「いいから来なつて。」

鉄塔の上

メロディース「ワオ！、イツツ・ア・ビューティフル！」

神無月「キレイ、こんな所にいい場所が有ったなんて！」

円堂「俺のお気に入りの場所なんだ！さて。」

神無月「もう降りるの？」

円堂「ああ、半田の新技の特訓に付き合いするんだ。」

メロディーヌ「田本、そして巴瀬^{バセ}くん、なんか楽しい事になりそう。フフッ」

第1-2話留学 ドイツの天才バイオリニスト（後書き）

次回予告

テレビで杉村メロディースと円堂守が共演！

次回 第1-3話生中継再び円堂とメロディース

第13話 生中継再び 円堂とメロディーヌ

金曜日 雷門中放課後

半田「いくぞ円堂、これが俺の新技だ！」

円堂「こい！半田！」

半田「ローリングクリムゾン」

円堂「真イジゲン・ザ・バンド」

パリーン

半田「よし！」

壁山「すごいッス！」

円堂「すげー！やつたな、半田！」

半田「おうーだがもつと強くなるぜ。」

一方 神無月家

フルルルル

神無月「はい、神無月です。」

撮影監督「やあ、愛ちゃん。」

神無月「あつ！監督、どうしたんですか？」

撮影監督「今度の日曜日、ラブリンの杉村メロディーヌに聞いてみよっ、と言つ番組をやるんだけどメロディーヌちゃんに頼んでくれない？」

神無月「はい、わかりました。」

撮影監督「後もう一人ゲストを誘つてくれない？」

神無月「もう1人のゲスト？」

撮影監督「誰でもいいんだけど、出来ればメロディーヌちゃんにふさわしい人で頼むよ、よろしく。」

神無月「メロディーヌさんにふさわしい人？ちょっとメロディーヌさんの所に行つてきます。」

神無月の母「愛、メロディーヌちゃんの所に行くならこれ渡してきて。」

神無月「これは？」

神無月の母「さつき焼いたクッキーよ、仲良く食べてね。」

神無月「ありがとうございます。ママ。」

幼稚園近く

神無月一 確か、一の辺のマンションに住んでゐるはず
なん!?」

神無月「この音色、確か。」パチパチパチパチ

神無月「やつぱつメロディー又さんのがイオリンの音色ね。」

メロディー又「愛?明後田」の生放送を!?

神無月 うん、後ゲストも出すの。

メロディーストOK、ミーの番組なら喜んで出るよ。

メロディーヌ「メロトディーヌでいいよ。」

神無用「・・・・・うん、メロディーヌ

テルリン「後はゲストは誰にするか、問題よね。」

神無月「そうね、言つたい誰をゲストにすればいいのかな？」

テルリン「いつそうの事、円堂くんにすれば。

神無月「テルリン、さすがにそれは。
」

メロディー又一え！？田堂くんを出すの！？」一も賛成！！」「

神無月 あー！えーと！」

神無月家

「テルリン」「ごめんなさい、冗談のつもりだったのに。」

神無月 まああの時は仕方なかつたが、どうしよう。」

神無用の母「どうしたの、愛、テルリン？」

神無月「あつママ、実は。」

神無月は母に訳を話した

神無月の母「なるほどね、ゲストは田堂くんと言つてメロディーヌ

ちゃんが喜んで言えなくなつたのね。

神無月の母「直接、円堂くんに頼んでみたら。」

神無月「えつ！？」

神無月の母「円堂くん、サッカー部のキャプテンだし、きっと大丈夫よ。」

円堂家

温子「守、愛ちゃんから電話よ！」

円堂「神無月から！？もしもし？」神無月「あつー円堂くん、悪いけど私の家に来てくれない？話したい事があるの。」

円堂「話したい事？今じゃダメなのか！？」

神無月「ダメかな？」円堂「いいけど。」

神無月「本当！ありがとう！家で待ってるから。」

神無月の家

円堂「こんばんは」

神無月の母「あらっー円堂くん」

円堂「娘さんの愛さんいますか？」

神無月「あつー円堂くん、来ててくれたんだー！ありがとう。」

円堂「それで話したい事って？」

神無月「明後日の日曜日、生放送やるんだけど、お願ーー円堂くん、ゲストになつて！」

円堂「えつー？俺がゲストにー？なんて番組だ？」

神無月「ラブリンの杉村メロディーナに聞いてみよう、て言つ番組だよ。ダメかな？」

円堂「・・・・・わかつた、いいぜ、神無月ー！」

神無月「えつ、本当に引き受けてくれるのー？」

円堂「ああ、日曜日練習休みだからな。」

神無月「ありがとうー円堂くん、明後日迎えに行くから。後服装は明日テルリンが知らせ行くからね。」

円堂「ああ、頼むぜ。」

第1-3話 生中継再び 円堂とメロディース ?

土曜日 サッカー部部室

1年生 「 テレビのゲストオオ !? 」 「

円堂 「 ああ、昨日神無月に頼まれたんだ !

風丸 「 何時やるんだ ?

円堂 「 明日だよ。 」

影野 「 いきなりな話だね。 」

トントン

木野 「 ハ～イ、あれ？ 誰もいない？」

テルリン 「 此処だよ～ 」

木野 「 あっ！ テルリン、『 めんね ! 気がつかなくて。 』

テルリン 「 円堂くん、明日の服装は自分らしい格好で来て、だつて。 」

「

円堂 「 僕らしい？」

豪炎寺 「 だつたら円堂は、ゴーフォームの方がいいんじゃないのか？」

冬花 「 そうですね。 守くんはゴーフォームの方が守くんらしいですね。 」

円堂 「 よ～し、決まりだ！ 神無月に伝えてくれ。 」

テルリン 「 了解！」 円堂 「 さあ、明日頑張るぞ！ 」

日曜日の朝 円堂家

温子 「 守～、起きなさい～！ もうすぐ迎えが来るわよ～！」

円堂 「 いけね～、もう少しで神無月が迎えに来るんだ！」

温子 「 全く、相変わらずなんだから、メロディースちゃん、よく守に憧れたものよね。 」

広志 「 ははは、それだけ守がすごい事した証だよ。 」

温子 「 そうね。 」

ピンポン

温子「ハ～イ」

ラブリン「ねはよつゞります、田堂くんのお母さん」

温子「あらっ、愛ちゃん」

ラブリン「し～！～今はラブコンですか～！」

温子「あらっ～♪めんなさい。」

ラブリン「息子さんは？」

田堂「お待たせ」

ラブリン「本当、ユーフォームの方が田堂くんいらっしゃね。」

田堂「じゃ、母ちゃん、行つて来る。」

温子「いってらっしゃい。」

テレビ局

風丸「少し早めに着いたみたいだ。」

豪炎寺「やはりお前も来てたか。」

風丸「豪炎寺！後夕香ちゃん、2人も来たんだ」

夕香「うん、お兄ちゃんのお友達を見に来たの」

染岡「よお～」

鬼道「お前たちも同じ考え方だつたか。」

豪炎寺「染岡、鬼道」木野「みんなも来たんだ！」

壁山「間に合つたッス」

栗松「あつ～みなさんやつぱり来てたんでもヤンスね。」

闇野 影野 宍戸 半田 松野 夏末 音無 士門 一之瀬 冬花 田

金 少林寺が来ていた。

鬼道「結局みんな考える事は同じだつた訳か。」

搭子「お～い」

夏末「搭子さん！？」搭子「田堂がテレビに出ると聞いて生で見に来たんだ！」

飛鷹「雷門のメンバーも来てたんだな。」

風丸「飛鷹！？お前もか！」

飛鷹「昨日、響木さんに聞いたんな。」

栗松「あつ～來たでヤンス！」

円堂「あつ！みんな、来てくれたんだ！」

ラブリン「円堂くん、こつちこつち」

円堂「じゃみんな、また後で」

木野「もしかして一番来たかったのは、立向居くんだったかもね。」
陽花戸中

戸田「立向居、ラブリンの番組やるけど、みんなで見ないか！？」
立向居「すみませんキャプテン！一田でも早く円堂さんに追いつきたいんです！」

戸田「そつか・・・・・・残念だなあ、ゲストは円堂くんなのに・・・」
・・・・・立向居「キャプテン、何してるんですか！？早くしないと円堂さんが見られなくなりますよ。」

戸田「切り替えの早い奴」

東京テレビ局

撮影監督「準備は良いかい？」

ラブリン「はい」

スタッフ「それでは本番入ります、スタート！」

ラブリン「みなさん、こんにちは。ラブリンの杉村メロディースに聞いてみよう！」が始まりました。

今日は、杉村メロディースさんに来ていただきました。

メロディース「ヨロシク！」

ラブリン「今回はゲストとして、円堂守さんに来ていただきました。では、どうぞ！」

円堂「どうも、こんにちは。」

ラブリン「今日は、来ていただいてありがとうございます。では、早く始めたいと思います。円堂さん、メロディースさんに聞きたいことがありますか？」

円堂「そうだな・・・、バイオリンを始めたきっかけはなんですか？」

メロディーヌ「ミーのパパはバイオリニストなの。」

ラブリン「バイオリンは、お父さんの影響なんですね！」

メロディーヌ「YES!でもこのバイオリンはミーが小さい頃優し

そのお姉さんにもらつた物なの」

円堂「もらつた？」

ラブリン「誰にですか！？」

メロディーヌ「あの頃ミーは小さかつたからよく覚えてないよ。」

番組もそろそろ終盤になりメロディーヌが円堂に質問する

ラブリン「では最後にメロディーヌさんが円堂さんに聞きたいことがありますか？」メロディーヌ「聞きたい」とあつ！一つ聞きた

いことがあるの。

ラブリン「何ですか？」

メロディーヌ「円堂くんは、なんでそんなにまつすぐでいられるの！？」

円堂「まつすぐ？うーん、うまく言えないけど、俺がまつすぐなのは、サッカーが好きだから！」

メロディーヌ「サッカーが好きだから！？」

円堂「ああ、人には必ず目標がある。」

メロディーヌ「目標？」

円堂「俺がサッカーで大きな舞台に行く目標があるから頑張れる、だから諦めなかつたんだ。メロディーヌにもあつたはずだ、バイオリンで大きな舞台に立つ目標が！」

メロディーヌ「うん、あつた！あつた！ミーが立ちたかつた舞台に立つ目標」

円堂「大切なのは、目標を持つて立ち上がる事なんだ！」

ラブリン「ありがとうございました！では、今日の番組はここまで、またお会いしましょう。」

テレビ局のロビー

壁山「キャプテン、かつこよかつたツス」

音無「お疲れさまでした。」

田堂「サンキュー、みんな。」

リブリン「どうだった？ 田堂くんの鷹坂が丑の齋葉。」

メロトマイース「うそ、嘘、おすます田堂くんに憧れたよ。」

第1-3話 生中継再び 巴堂とメロディーナ ? (後書き)

次回予告 メロディーナが神無月とハーモニーの歌を作りだす

第14話 奇跡の歌

ハーモニー・ハート

イナズマイレブン

今日の格言

巴堂「大切なのは、目標を持つて立ち上がる事なんだ！」

第14話 奇跡の歌ハーモニーハート

神無月家

ピロロロロン

テルリン「愛、メールだよ。」

神無月「メロディースからだわ！」

メール【愛へ、ミーのバイオリンと愛の歌声で歌の作る。クッキーもお願いね】

メロディースのいるマンション

メロディース「音色はバツチリ作つたよ、後は愛が歌詞を作るだけだよ。」

神無月「うん、任せて。」「とは言つもの、どういつ歌詞にするかな。」

鉄塔

円堂「ん！あれば・・・・お~い神無月い！」

神無月「円堂くん」

円堂「どうしたんだ？少し元気ないみたいだけど！？」

神無月は円堂に訳を話した

円堂「メロディースが歌を作ると！？」

神無月「うん、でも歌詞が思いつかなくて。」円堂「大丈夫、2人の気持ちが一つになれば奇跡がおきる」

神無月「えつ！奇跡、それだわ！ありがとう円堂くん」
雷門中

木野「奇跡がメインの歌を作るのね！」

神無月「うん、他になに入れればいいか。」

木野「迷わないで考えていこう。」

神無月「迷わない それももうつたわ！」

染岡「信頼も使えねーか！？」

神無月「信頼、それも使えるわ！」

神無月は円堂たちのヒントで歌詞を作りました。

神無月「円堂くん、歌出来たんだけど。」

円堂「本当か！？やつたな、神無月。」

神無月「だからみんなを誘つて鉄塔に来ててくれる、私もメロディーヌと先に行ってるから。」

円堂「わかった！みんなを呼んでくる」

再び鉄塔

神無月「あつ！来たよ！」

円堂「お待たせ！みんな連れてきたぜ。」

冬花「それでどんな歌何です！？」

メロディーヌ「ミーと愛が作つた歌そのタイトル名は」

メロディーヌ「神無月」「ハーモニー」「ハート」

神無月とメロディーヌが作った歌はとてもよく本当に奇跡が起るハーモニーな歌だった

神無月家

神無月の父「メロディーヌちゃんと作った歌きつと大評判になるよ。」

神無月の母「そうね。」

神無月「ヤダ～パパ、ママ大評判だなんて。」

テルリン「でもいい歌だつたし大評判になるよ。」

神無月「テルリンまで。」

ピンポン

神無月「私が出る。ハ～イ」

ガチャ

神無月「あつ！メロディーヌ」

神無月の母「あらつ！メロディーヌちゃん、どうしたの？そんなに荷物を持つて。」

メロディーヌ「ミー今日からここに住む事にしたの。」

神無月「本当！？」

神無月の父「歓迎するよ。空き部屋があるから。」

神無月「よろしくね、メロディーヌ」

メロディーヌ「ヨロシク、後一つお願ひがあるんだけど。」

神無月「えつ？」

次の日 雷門中

豪炎寺「そうか、メロディーヌが神無月の家住む事になつたのか。」

木野「バイオリンの音色と歌声がピッタリだもんね。」

神無月「うん！じつはもう一つ驚く事があるの。」

円堂「驚く事？」

ガラガラ

先生「まあ、席に付け。今日はドイツから来た留学生を紹介するぞ。」

「円堂「ドイツから来た留学生？まさか！」メロディーヌ「はじめまして、杉村メロディーヌです、ヨロシクね。」

木野「驚く事つてこの事だつたのね！」

神無月「うん」

メロディーヌ「あつ！守くん！」

円堂「えつ！？守くん！？」

メロディーヌ「うん、今日から守くんと呼んでいいよね？」

円堂「ああ！いいぜ、よろしくな！メロディーヌ」

メロディーヌ「ヨロシク」

放課後

風丸「炎の風見鶏」

円堂「真イジゲン・ザ・ハンド」

メロディーヌ「ワア！ファンタスティック！」

神無月「すごい、みんな楽しそう、特に円堂くん」

メロディーヌ「なんで守くんは、あんなに楽しそうにサッカーやれるんだろ？」響木「それはあいつが宇宙一のサッカーバカだからだ。」

「メロディーヌ「宇宙一のサッカーバカ！？」

神無月「円堂くんたちが一年生の時もサッカー強かつたのかな？」

木野「ああ、実を言つと」

神無月「ええ～！！円堂くんが雷門中に入学した時サッカー部はなかつたの！？」

木野「うん、40年前サッカー部はあつたけど廃部になつて円堂くんと私がサッカー部を作つたの。最初は部員は7人だけだつたけど風丸くんたちや豪炎寺くんが入つてくれたからフットボールフロンティアに出場出来たのよね。」

メロディース「でもサッカー部が今の人数で昔の人数が考えれないな。」

夏末「ええ、そうね」メロディース「やっぱり、守くんが諦めなかつたからフットボールフロンティアで優勝出来たんだね。」

木野「そうだね、すべては、円堂くんがみんなを支えて元気ずけてくれたからだね。」

メロディース「すべては守くんが支えたつか・・・やっぱり、守くんはすごいよ。」

第14話 奇跡の歌ハーモニー・ハート（後書き）

次回予告 ニュージーランドの男が俺をスカウトする

第15話 新たな舞台

ニュージーランドへ

今日の格言

円堂「2人の気持ちが一つになれば奇跡が起きる」

オリキヤラ設定・・・・?

オリキヤラその6

名前 クロナ・ワークス

性別 男

年齢 14歳

ニュージーランド出身、32チーム、ホワイトタイガーのキャプテン。外道のサッカーチームブラックドラゴンを憎んでいる。

ポジションFW

背番号9

必殺技ライトニングボルテック、ライトニングボルテック改、真ライトニングボルテック。

オリキヤラその7

名前 スティーブ・キャブラー

性別 男

年齢 14歳

32チーム、ブラックドラゴンのキャプテン。外道のサッカーチームと言われているが自分はなぜ言われているのかわかつていない。

ポジションFW

背番号10

必殺技 リュウノアギト リュウノアギトV2 リュウノアギトV3

オリキヤラその8

名前 ジャンヌ・フォウド

性別 女

特徴髪の色は水色のロング。目の色は薄い紫

クロナ・ワークスの幼なじみでサッカーが好き。サッカーのルールも詳しくホワイトタイガーの監督を勤めていた、親を亡くしホワイトタイガーの大統帥をやっている

第15 新たな舞台 ニュージーランドへ

ニュージーランド

？？？A「くそ～、まさか大会前にこんな事になるなんて、一体どうすれば！？」

？？？B「落ちついで下さい、いい選手を見つけました。」

？？？A「本当か！？そいつはどこに？」

？？？B「日本の東京、稻妻町に世界一になったゴールキーパーがいます、他の選手もいるはずです。」

？？？A「日本か～、遠いな～。でもいない方よりマシだ！必ず大會前に間に合わせ見せる。」

日本 稲妻町住宅街

？？？A「確かにこの辺のはずだが、あの人に聞くか。ね～君！」

木野「はい！なんですか？」

？？？A「この辺に世界一になったゴールキーパーの家はどこかな？」木野「世界一になったゴールキーパー？円堂くんと事ですか！？」そこでしたら、ここです。」

？？？A「ここが！」

ガラツ

円堂「母ちゃん、行つてくる。おう、秋。あれ！君は？」

？？？A「俺、ニュージーランドから来たクロナ・ワーカスだ。円堂、お前を俺のチームにスカウトする。」

円堂「ええ～！？俺がニュージーランドのチームに…？」

クロナ「ああ、いいよな。」

円堂「悪いけど、俺は雷門サッカー部のキャプテンなんだ、ストは断るよ。行こうぜ、秋。」

木野「うん。」

クロナ「断られた、でも諦めない。」

雷門中

鬼道「円堂をスカウトする奴！？」

木野「うん、でもすぐ断つたけど。」

豪炎寺「染岡、雷門のキャプテンが円堂以外の奴は考えられるか！」

？」

染岡「そんな事、考えられる訳ねーだろ！」

神無月「円堂くん」

夏末「あらっ、神無月さんにメロディーヌさん！」

メロディーヌ「ハロー、愛のママが差し入れでクッキーを作ってくれたんだ。」

壁山「クッキー！おいしそう」

テルリン「何か話してなかつた？」

音無「じつはですね」

メロディーヌ「そんな事があつたんだ。」テルリン「プロのスカウトでもないのに円堂くんをスカウトするなんて。」

豪炎寺「俺たちがここまで成長したのは、円堂がそばにいたからだ。」

「一之瀬「そうだ、俺も円堂のサッカーが好きになつて雷門に入つたんだ。」

円堂「ありがとな、みんな」

クロナ「あいつ、いい仲間を持つてるぜ。」古株「誰じゃ？お前さんは。」

クロナ「わあ！..」

土門「誰だ、あいつ？」

円堂「またお前か、スカウトは断つたはずだ。」

風丸「あいつが円堂をスカウトした奴か！？」

木野「うん」

クロナ「まあ、スカウトと言つても大会が終わるまでの助つ人でいいんだ。」

円堂「助つ人？」

クロナ「そうだ。」

円堂「グランジに来い」

クロナ「えつ！？」

円堂「PKで勝負だ！お前のシユートが本気なら話しを聞いてやる。」

「クロナ　　わかつた、いくぞ円堂～！ライト～ングボルテック！」

土門「なんだ！？あのシユート！」

円堂「ゴッドキヤツチG3」

しゅううう

松野「止めた！」

宍戸「キャプテンの勝ちだ！」

クロナ「くそ～。」

円堂「このシユート、本氣のようだな。」

クロナ「ああ、本氣でけらない奴がどこにいる。」

円堂「話しを聞いてやるよ。」

クロナ「本当か！？ありがとう。」

円堂「ニュージーランドのお前がなぜ日本に来たんだ！？」

クロナ「じつは、今週年に1度行われるサッカー大会、カラーアーマルカップが開かれる。俺たちのチーム、ホワイトタイガーも大会に向けて練習していた！だが、16人の内、13人が事故で怪我してしまったんだ。」

夏末「それは大変だつたわね。」

クロナ「でもあの事故はすべて俺たちを狙っていた、これは外道のサッカーチーム、ブラックドラゴンの仕業に違いない！あいつらは勝つためなら手段は選ばない奴らだ！残つたのはフォワードの俺とディフェンダーの2人だけ、頼む円堂、俺たちのチームに助つ人として参加してくれ。」

円堂「ああ、話しさわかつたぜ、クロナ。俺もその大会に参加する。」

「クロナ　　本当に参加してくれのか！？」

円堂「ああ、そんな卑怯な事許せない！」

木野「でもクロナくん、円堂くんをスカウトしても他にあてはあるの？」

クロナ「あつ！円堂をスカウトするに夢中であてはない。」響木「だったら、フットボールフロンティアインター・ナショナルの日本代表候補に選ばれたお前らが出るべきだ！」

目金「響木監督、一斗もふくめますか？」

響木「精神にもろい奴は無理がある。後、一之瀬、土門、お前たちもふくめる。」

一之瀬、土門「ハイ！」

鬼道「しかし後2人足りないな。」

？？？「僕たちも参加しよう。」

円堂「あつ！アフロディに佐久間！！」

佐久間「雷門中近くでアフロディに合つたんだ。」

アフロディ「話はすべて聞かせてもらつた。僕たちで良ければ力になるよ。」

円堂「本当か！？アフロディ。」

アフロディ「ああ、君に取つて許せない事は僕に取つて許せない事だ」

半田「円堂、俺たちも行くよ。」

円堂「えつ！？」

半田「俺たち、日本代表候補になれなかつたけどみんなを見守る事がなら出来る。なあみんな！！」

影野、宍戸、少林寺「「おお～」「」

メロディーヌ「だつたらヨーも行くよ。」神無月「それなら私も行くわ。」

テルリン「私も。」

円堂「ありがとう、みんな。」

クロナ「本当にいい仲間を持つたな、円堂。」

円堂「よし、メンバーがそろつた！行こ！ぜ、ユージーランドへ！」

仲間達「「「おお～」」」
次の日 田堂たちは「ヨーロッパランド」に出発した。新たな戦いが幕を開ける。

第15 新たな舞台 ニュージーランドへ（後書き）

次回予告 ニュージーランドで行われるカラーアニマルカップがいよいよ幕を開ける

第16話 開幕 カラーアニマルカップ
イナズマイレブン

今日の格言

アフロディ「君に取つて許せない事は僕に取つて許せない事だ」

第16話 開幕 カラーアニマルカップ

「ユージーランドの山奥

イナズマキャラバン

メロディース「イナズマキャラバンって、ユニークな乗り物だね！」

神無月「うん、私も始めて乗るよ。」

風丸「しかし、こんな山奥に村があるのか！？」

クロナ「確かにこの辺、あつ！古株さんすみません、止めて下さい。

あつ！見えた！みんな、見えたぞ～！」

鬼道「ここが32チームの村か！？」

クロナ「いや、ここは俺たちホワイトタイガーの合宿村だ。大会1ヶ月前になるとここに来るんだ。」

壁山「早く泊まる所に行くッス。」

クロナ「悪いけど、まずみんなに、大統師に会つてもらいたいんだ。」

豪炎寺「大統師？」

クロナ「ああ、さあ行こうぜ。」

合宿村

円堂「すげえ～、奥にでっかい建物があるぞー！」

クロナ「あそこが、俺たちの練習グランドだ。少し目の前にポジションの間がある」

円堂「ポジションの間？」

フォワードの間

FWA「はつ！」

FWB「シユート！」

音無「たくさんいますよ～！」

染岡「こんなにいて、なぜこいつらを選ばなかつたんだ。」

クロナ「ここにいるのは、みんな小学生みたいな物なんだ。だから

出場できない。」

木野「そういえば、残つたのは、クロナくんとディフェンダーの2人つて言つてたね」

クロナ「ああ、そいつらならディフェンダーの間に。」ディフェンダーの間

クロナ「ほらあそこ、あの2人は双子で黒い髪が兄のカインで茶色の髪が弟のケインだ。お~い！」

カイン「クロナ！帰つてきたのか！？」

ケイン「そいつらが助つ人か！？」

鬼道「ところで、ホワイトタイガーのキャプテンは誰なんだ？まさか怪我をしてしまつたのか！？」

クロナ「あ~、言つてなかつたな。キャプテンは・・・・俺なんだ。」

円堂たち「ええ~!!!!」

円堂「クロナ、お前がキャプテンだつたのか！？」

一之瀬「この2人の実力は？」

クロナ「試して見るかい？」

一之瀬「じゃあ俺が相手になるよ。」

カイン「フィールドの魔術師、一之瀬一哉か！」

一之瀬「いくぞ！！」ケイン「やるぜー二キ！」

カイン、ケイン「デュアルストーム！~！」

一之瀬「うわっ！！」

円堂「すげえ！」

鬼道「コンビネーション抜群だな。」

カイン「クロナ、大統師の所に行つたか？」

クロナ「あつ、すつかり忘れてた。今から行くから2人は先に寮に戻つてくれ。」

カイン、ケイン「わかつた。」

大統師の塔

円堂「ここに大統師がいるのか！？」

クロナ「おう！」

土門「ところで、その大統師ってどんな奴なんだ！？」

クロナ「大統師は俺の幼なじみなんだ」円堂「ええ～～！」

冬花「幼なじみなんですか！？」クロナ「ああ、前はホワイトタイガーの監督をやってくれたんだ！でも両親を亡くしてから大統師になつたからな。」

夏末「両親と大統師の何の関係があるの？」

クロナ「それは、彼女が前の大統師の娘だからだよ。」

円堂「そうだつたのか！？」

クロナ「中に入るぞ。みんな付いてくれ。」

大統師の部屋

クロナ「大統師、助つ人メンバーを集めてきたぜ。」

大統師「お疲れ様でした！始めてまして、雷門中のみなさん、私が大統師のジャンヌ・フォウドです。」

木野「あの人気がクロナくんの幼なじみ！」ジャンヌ「円堂くん、あなたの活躍は聞いています。」

円堂「あっ！ありがとう！」ジャンヌ「みなさんも、大会は明後日ですでのゆっくり休んで下さい。」

合宿村の寮

円堂「ここがホワイトタイガーの寮か！」

カイン「よう、遅かつたな。」

ケイン「後は明日に備えて休んでくれ。」

次の日 グランド

クロナ「佐久間！」

カイン「いくぞ！ケイン」

ケイン「おし、通さないぜ。」

トン

佐久間「よつと」

トツ

「甘いぜ」

クロナ「佐久間やるな！カインとケインのコンビネーションを突破

するとは！」

鬼道「春菜はどこに行つたんだ。！？」

クロナ「音無は古株さんとユニフォームを取りに行つた」

木野「みんな、休憩よ！」

クロナ「カイン、ケイン、どうだ！？円堂たちの動きは！？」

ケイン「そうだな、いい動きをしてる。」

音無「みなさん！ユニフォームが届きましたよ！？」

円堂「本当か！？すげえ、これがホワイトタイガーのユニフォームか！かつこいいぜ。」

クロナ「ああ、白いトラのマークが有るだろ！それが白虎だ」

円堂「よし、気合いが入つた！練習再会だ！」

クロナ「えつ！？今休憩したばかりだろ！」

円堂「ユニフォームを着てやる気出てきた！」

クロナ「お前たちのキャプテン、いつもこんな風なのか？」

染岡「ああ、これだから円堂といても退屈しないぜ。」

夕方 グランド

クロナ「練習終わりだ！明日に備えて休んでくれ。」

メロディース「ん？ね～クロナくん。あのタイヤは！？」

クロナ「あのタイヤはダンプカーのタイヤだ。もう使わないけど。

メロディース「あつ！？あのタイヤくれないかな？」

クロナ「いいけど、何に使うんだ！？」

メロディース「後簡単に切れない縄ある？」

クロナ「縄だつたら、物置にあるが。」

神無月「わかつた！メロディースがやりたい事が！」

メロディース「最後に丈夫な木はどこにあるの？」

クロナ「この木なら簡単に折れないよ。でも何に使うんだ？」

メロディース「テルリン、守くんを呼んできて。」

テルリン「了解！」

メロディース「この縄をここに枝に縛つて、出来た！」

クロナ「これ、いつたい何に使うんだ？」

テルリンク「メロディーヌ、円堂くんを呼んできたよー。」

円堂「なんだ、メロディーヌ！？ おつ！…」これは、キーパーの練習のタイヤ！」

メロディーヌ「大きなタイヤを見つけたから、いりするのはどうかなって。」

円堂「サンキュー、メロディーヌ！早速使つかせ。そらつー。」
バシイイン

クロナ「なつ！なんて危ない特訓なんだ！？ほびほびにじるよー。ケガしたら元も子もないぞ。」

円堂「大丈夫！いつもやつてるから。」

クロナ「いつもー！ー？やつぱあいつ、変わってるな。」

大会当日

円堂「いよいよカラー二マルカップが始まるんだな。」

クロナ「ああ、円堂、これを受け取ってくれ。」

円堂「これは、キャプテンマーク！」

クロナ「みんなの力を引き出せるお前がキャプテンをやってくれ。」

円堂「悪いけど、受け取れない。」

クロナ「えつ！？」

円堂「ホワイトタイガーのキャプテンはお前だろー。自分のチームは自分が引っ張らなきゃダメだ！」

クロナ「 そうだよな、キャプテンの俺がこんなんじゃダメだよな。よし！目が覚めたみんな、大会に乗り込むぞー！」

ホワイトタイガーのメンバー「 「おおー」」

いよいよカラー二マルカップが始まつたーこの先にどんな試合が待ち受けいるのかー？」

第16話 開幕 カラーアニマルカップ（後書き）

次回予告 ついに大会が始まった 1回戦の相手はいきなり優勝候補

第17話 赤き闘牛 レッドバッファロー

イナズマイレブン

今日の格言

円堂「自分のチームは自分が引っ張らなきゃダメだ!」

第17話 赤き闘牛 レッドバッファロー

トーナメント表

クロナ「1回戦の相手はレッドバッファローか！」

カイン「いきなり厄介な相手だな。」

円堂「そんなに強いのか！？」

クロナ「ああ、毎年の大会で優勝候補と言われてる！」

円堂「すげー！そんな強い相手と戦えるのか！？」

ケイン「普通、喜ぶ所じゃないぞ。」

豪炎寺「あいつは、相手が強ければ強いほど盛り上がる奴だ！」「？？」「俺たちと戦えるのがそんなに嬉しいのかい？」

クロナ「レジー！」

風丸「誰だ？あいつは。」

クロナ「あいつはレジー・ハミルトン、1回戦の相手、レッドバッファローのキャプテンだ！」

円堂「お前がレッドバッファローのキャプテンか！俺、日本から来た円堂守、よろしくな。」

レジー「円堂守？」

ゾロ「聞いた事ある、日本代表、イナズマジャパンのキャプテンだつて。」

レジー「ああ、まぐれで世界一になつたチームのキャプテンか！」

染岡「なんだと！俺たちが優勝出来たのは、まぐれだと言うのか！」

レジー「しかし、ホワイトタイガーも落ちたな、日本を助つ人にすることは！まあ、せいぜい頑張りな、まつムリだろ？けど。アハハハハ！」

染岡「チツ！」

テルリン「やな感じ！」

クロナ「言わせておけ、さあ中に入るぞ！」

王将「さあ始まりました！ニュージーランド、カラーアーマルカッ

プが開催されます。」

木野「あの人、なぜここに！？」

クロナ「王将さんを知ってるのか？」

松野「日本のフットボールフロンティアで実況をしてるんだよ。」

王将「Aグループの1回戦、ホワイトタイガー対レッドバッファローの試合が始まります。」

ホワイトタイガー

FW 背番号

豪炎寺 10

クロナ 9

染岡 11

松野 6

鬼道 14

一之瀬 7

風丸 2

カイン 3

ケイン 4

土門 13

GK 1

円堂

D F FW

レッドバッファロー

M F

ペデニヨ 9

レジー 11

ボム 10

ロド 8

キーン 7

マークー	6	D F
ゴードン	5	カーター
マック	3	カーター
フォード	2	マック
G K		ゴードン
ゾロ	1	カーター
ピイイイイ		マック
王将「ホワイトタイガーのキックオフで試合が始まった！」		カーター
松野「クロナ！」		マック
クロナ「いくぞ！ライトニングボルテック！」		ゴードン
ゾロ「バッファローーホーン！」		カーター
王将「止めた！キーパーゾロ、クロナのショートを止めました。」		マック
ゾロ「ボム」		ゴードン
鬼道「風丸、マックス！」		カーター
風丸、松野「おお～」		マック
ボム「牛追い突進！」		ゴードン
風丸、松野「ぐあ！」		カーター
ボム「レジー！」		マック
レジー「バイソンキヤノン！」		ゴードン
円堂「爆裂パンチ！ぐあ～！」		カーター
王将「ゴール！レッドバッファロー1点先制だ！」		マック
円堂「すげー、こんなショート撃てるなんて！やっぱり世界はまだ		ゴードン
まだすごい奴がたくさんいるんだな！」		カーター
ロド「点取られたのに何喜んでんだ？」		マック
レジー「点取られたからやけになつたんだよ。」		ゴードン
円堂「クロナ！試合はまだまだこれからだ！いくぞ！」		カーター
王将「レッドバッファローの攻撃はまだ続きます！ペーテー二ヨが上		マック
がつて行くぞお～！」		ゴードン

ペティー「ヨ「ニードルショット！」

カイン、ケイン「「羅生門」」

王将「カインとケイン、ペティーのシユートを止めた！ボールは

風丸に渡つた！」

風丸「真風神の舞！」

マーキー「うわあ！」

風丸「染岡！」

染岡「打ち砕け、ドラゴンスレイヤー～3」

ゾロ「バツファローーホーン」

王将「ゾロ、ドラゴンスレイヤーを止めた！」

ゾロ「ゴードン！」

松野「クイックドロウ～2」

ゴードン「うつ！なに！？」

松野「豪炎寺！」

豪炎寺「真爆熱スクリュー！」

ゾロ「バツファローーホーン！」

木野「なんて力なの！」

ピィピィ

王将「ここで前半終了だあ！得点は1対0でレッドバツファローのリード、ホワイトタイガー追いつけるのか！？」

クロナ「くそ、ここまでか！」

円堂「クロナ！まだ終わつた訳じゃない！諦めたらおしまいだ、何のために俺たちを助つ人にしたんだ？」

クロナ「ああ、そうだな、これから後半が始まると諦めかけてたぜ！よし、後半で逆転だ！」

ホワイトタイガーのメンバー「「おお～」」

ピィ

王将「後半が始まりました！ホワイトタイガーが逆転するのか！？レッドバツファローが逃げ切れるのか！？」

円堂「さあみんな、諦めずに戦うぞお！」

クロナ「ライトニングボルテック」

ゾロ「バッファロー・ホーン」

松野「クロスドライブ改」

カーター「ザ・コンクリート」

神無月「キーパーだけじゃなくティフュンダーも固いわ！」

ゾロ「まぐれで世界一になつた奴らに俺らの技破れる訳ないだろ！」

染岡「まぐれじゃねえ、仲間と友に戦つたから世界一になつたんだ！クロナやジャンヌの期待に応えるぜ！」

クロナ「染岡」

王将「さあ、ここでロスタイルに入つた！このまま終わつてしまつのか！？」

クロナ「染岡、決める！」

染岡「うおおお！いけ～」ゾロ「バッファロー・ホーン…ぐう…」

パリー・ン

ゾロ「ぐわあ！」

王将「ゴール！ホワイトタイガー、ついに同点！染岡の新技が決まつた！」

レジー「うそだろ！」

目金「竜の爪がゴールを襲う、ドラゴンキラーと名付けましょう」

レジー「引き離してやる、バイソンキャノン…」

円堂「もう点はやらないぜ！爆裂パンチ改」

バシン

レジー「なに！？進化しただと！？」

王将「残り時間は、後わずか！先に点を取るのはどちらのチームなのか？」

染岡「いくぜ！」

ゾロ「そいつを止める！」

染岡「今だ！いけクロナ！」

クロナ「ああ、みんなの頑張り無駄にしない、ライトニングボルテック改」

ゾロ「バツファローホーン！」

パリーン

ゾロ「あつ！」

王将「決まった！ホワイトタイガー、ついに逆転！」
ピィピィピィ

卷之三

「試合終了！ホワイトタイガー、1回戦突破しました！」

レジー「負けた！」

メロディーヌ「やつた」

正堂 - ハウス?

レジー、負けたよ。世界一になれたのは、まぐれじゃなかつたみたいだ。

卷之三

「…ひづれ」

レジー「ああ、またやねー」

神無月「そうだね。」

クロナ「田舎者、やつぱつ面白い奴。」

第17話 赤き闘牛 レッドバッファロー（後書き）

次回予告

次回 外道と呼ばれしチーム、ブラックドラゴンが恐ろしい力を見
せつけてきた！こいつらに勝てるのか…？

第18話 ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピック
イナズマイレブン

今日の格言

染岡「仲間と友に戦つたから世界一になつたんだ！」

第18話 ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピッケ

レッドバッファローに勝利し2回戦に駒を進めたホワイトタイガー

神無月「お疲れ様、円堂くん！」

メロディース「すごい試合だったね！染岡くんもすごいショートだつたよ。」

染岡「当然だぜ！」

豪炎寺、このままエースストライカーの座は、俺がいただくぜ！」

豪炎寺「ふつ、確かにお前は凄い。だが、俺にもプライドがあるからな。エースストライカーの座は譲れないな」

円堂「確かに次はBグループの1回戦だったな。」

クロナ「ああ、あの外道のブラックドラゴンが出る試合だ。」

？？？「外道で悪かつたな。」

クロナ「ブラックドラゴン！！」

鬼道「あいつらがブラックドラゴン！」

？？？「よお、元気そうだな、クロナ！」

クロナ「久しぶりだな！ステイーブ！」

ステイーブ「今年のお前たちは不幸だったな。」

クロナ「なんだと！？」

リコ「13人が事故で出場出来なかつたのが最悪だったな」

カイン「お前らがやつたくせに！」

ココル「オイオイ、変なん言いがかりはよしてくれよ。

俺たちがやつたつこう証拠でもあれば謝つてやるよ。」

カイン「くつ！」

クロナ「ステイーブ、この借りは試合で返すからな！」

ステイーブ「いいだろう、ただし、お前たちがその日本人と決勝まで来れたらの話だがな。」

アツハハハハハ

テルリン「レッドバッファローのキャプテンよりやな感じ！」

円堂「あいつがブラックドラゴンのキャプテンか！？」

クロナ「ああ、あいつがキャプテンのステイー・キャプラーだ。」

佐久間「あいつの実力は？」

ケイン「ステイー・ブの実力は確かだ。前の大会で1年ながらハットトリックを決めまくつていたからな。」

円堂「そんなに凄いなら、見てみたいぜ！」

クロナ「よし、この後あいつの試合だし1回見に行くか！」

王将「ええ、Bグループ1回戦、ブラックドラゴン対イエローハイグルの試合を行います！」

ピィィィィ

ゴメス「オラア」

イーグルA「な！」

ドガツ

イーグルA「グアツ」

ログ「そらよパース」

バキツ

イーグルB「ヌアツ」

木野「酷い・・・・」

ステイー・ブ「そら」

ギュルルルル

イーグルC「この程度のショート、止めてやる」

ブウオオオオ

イーグルC「な、なんて、パワーだ。」

ウワアツ」

ピィィ

王将「決ました！ブラックドラゴンキャプテンステイー・ブ。試合開始一分で先制ゴールだ！」

円堂「なんてやつらだ！平気で人を倒してまで。」

クロナ「これが奴らのやり方だ。選手を倒し点を取るのがあいつのサッカーだ。」

そして試合が終わり円堂たちは寮に戻った！

円堂「クロナ、あいつらと戦うために練習やろ？。」

クロナ「あ、やろ？」

ホワイトタイガーはブラックドラゴンや次の試合のために練習に励んだ。

次の日

音無「次の相手はピンクピックになりました！」

クロナ「ピンクピックか。」

ケイン「また厄介な相手がきたよ。」

鬼道「まさかそいつらも…」

カイン「そのまさかだ。そいつらも優勝候補だ。」

クロナ「ピンクピックのメンバーは全員がゲームマイカーだからな。」

風丸「全員がゲームマイカー！？」

クロナ「特にキャプテンのリキット・グンドは、フィールドの全てを支配するようなゲームマイクをする。」

佐久間「鬼道並みのゲームマイクをするのか？」

クロナ「恐らくは鬼道以上かもしない」

壁山「そんなにすごいんツスか！？」

クロナ「鬼道が11人いると考えた方がいいだろ？」

壁山「なんか考えたら不気味ツス」

鬼道以外『確かに』

カイン「明日の試合は染岡とクロナを警戒するだろ？」

円堂「そうか！染岡は昨日点を取つたんだ。」

鬼道「だつたらいい方法がある！」

クロナ「何があるのか！？」

試合の日

王将「カラーアニマルカップ、Aグループ2回戦第1試合

ホワイトタイガー対ピンクピックの試合が始まります。」

円堂「よし、今日も勝つぞお！」

ケイン「あつ…ブラックドラゴン…」

クロナ「なに！？」

豪炎寺「俺たちを偵察しに来たのか？」

風丸「誰だ？ステイーブと話してるのは？」

クロナ「あの人はブラックドラゴンの監督、ゲオン・ニコルソンだ。」

「円堂「あれがブラックドラゴンの監督。」

王将「さあ間も無く試合が始まります！」

バツクラ「オイオイ、リキット見るよ…」

リキット「レッドバツファロー戦で1点取ったピンクの坊主頭が控

えだと！？」

サムソン「しかも、前の試合に出なかつた奴を出して来たぜ…」

ホワイトタイガー

FW
豪炎寺 10

MF
クロナ 9

MF
シャドウ 12

DF
佐久間 16

DF
鬼道 14

DF
アフロディイ 8

DF
壁山 15

DF
カイン 15

DF
ケイン 15

DF
栗松 15

DF
GK 15

DF
円堂 15

ピックアップ

1 5 4 3

FW	オマリー	1	1
ピドロ		1	0
ダンク		9	
MF			
リキット	8		
ユング	7		
ハロッズ	6		
DF			
バックラ	5		
フランキー	4		
ブライト	3		
GK			
エスト	2		
サムソン	1		
ピィイイ			
王将「ホワイトタイガー対ピンクピックの試合が今キックオフ！」			
リキット「エスト、14番に2テンポダウンでボールを奪え！」			
エスト「ハツ！」			
鬼道「なに！？」			
王将「鬼道ボールを奪われた！」			
リキット「2、5、8、11」			
バシツ、バシツ、バシツ			
鬼道「連携が背番号の順番で通つてると！」？			
オマリー「いくぜ！ター・ビュランス！」			
円堂「いかりのてつつい▽2！グアッ！」			
王将「ゴール！オマリーのシュートでピンクピック、1点先制！」			
クロナ「やられたか！だがまだ始まつたばかりだ！」			
王将「1点を追うホワイトタイガー！同点になるのか！？」			
佐久間「いけ、豪炎寺！」			

豪炎寺「真爆熱スクリュー！」

サムソン「大風車！」

王将「サムソン、豪炎寺のシューートを弾き返した！」

サムソン「イナズマジャパンのエースストライカーのシューートがコ
レカ・・・・・余程世界のレベルが低いんだなあ」

リキット「2テンポアップ！レフトゾーンからカウンター！」

鬼道「行かせるな！」

壁山「行かせないッス！ザ・マウンテン！」

ピドロ「グアツ！」

壁山「栗松！」

栗松「まぼろしあリブル改！」

王将「ホワイトタイガー、壁山が守り、栗松が突破し反撃となるか
！？」

栗松「シャドウさん！」

闇野「ナグナロク！」

サムソン「大風車！」

闇野「くそー！」

ピィピィイイ

王将「前半終了だ！」

鬼道「リキットのゲームメイクを破るには少し時間がかかりそうだ。」

円堂「大丈夫だ！きっと突破口はある、」

ピィイイイ

王将「後半戦が始まりました！」

リキット「コンング、上がれ！」

クロナ「カイン！」

カイン「ホーントレイン！」

ユング「うわあ！」

円堂「ケインと一緒にだけじゃなかつたのか！？」

カイン「アフロディ！」

リキット「オマリー、ハロッズ！」

アフロディ「真ヘブンズタイム！」

オマリー、ハロッズ「うわあ！」

リキッド「くそ、突破されたか。」

アフロディ「シャドウくん」

闇野「次こそは決める！うおお！」

サムソン「大風車！」

バキッ

サムソン「グアッ！」

王将「ゴール！闇野の新技が決まった！」

目金「一之瀬くんのペガサスショットみたいな勢いのケルベロス、

ケルベロスバスターと名づけます。」

リキッド「くそ、なめるな、オマリー、点を取れ！」

オマリー「タービュランス！」

円堂「絶対止める！いかりのてつつい▽3」

オマリー「なに！？」

リキッド「くそ、だつたら俺が、ブレイジングドライブ！」

王将「これは、かなり強いシューートが出た！」

鬼道「円堂！－！」

円堂「任せろ！ゴッドキャッチG3」

しゅうう

リキッド「なんだと！？」

円堂「いけ、みんな！」

佐久間「豪炎寺！」

王将「さあ次の1点が勝敗を決めることになるぞ！」

豪炎寺「（今の俺のシューートじゃ通用しない、シャドウに渡せば。）

染岡「打て！豪炎寺！そんな弱気になりやがって！テーマは俺たち

雷門のエースストライカーなんだ！」

豪炎寺「染岡！？」

円堂「そうだ！いけ、豪炎寺！」

「

豪炎寺「円堂！・・・・なに弱気になつてたんだ俺は？みんなの声が聞こえるかぎり俺は強くなる。はああ。」

サムソン「大風車！」

バキッ

サムソン「ああ！？」

王将「ゴール！ホワイトタイガー、ついに逆転！」

目金「名づけてバー・ニングサイクロン！」

ピィピィピィイイ

王将「試合終了！ホワイトタイガーの逆転勝利だー！」

リキッド「負けたよ、おめでとう！クロナ。」

クロナ「リキッド！ありがとう！」

円堂「やつたな！シャドウ、豪炎寺！」

豪炎寺「ああ、みんなのおかげだ！染岡、ヒースストライカーは俺でいいのか！？」

染岡「お前があんな弱氣じやヒースストライカーの座をあらわすハイバルがいなくなつちまつから言つただけだ！」

豪炎寺「ああ、望むところだ。」

ステイーブ「ゲオン監督、ホワイトタイガーが勝ちました」

ゲオン「別にどうでもいい、今年の優勝はブラックドラゴンと決まつてるからな」

ステイーブ「はい」

ゲオン「（・・・・今之内にはしゃいでいる我らブラックドラゴンの恐怖はここからだ！フツフツフツー）」

第1-8話 ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策+ピンクピッカ（後書き）

次回予告 次の相手はカウンター技を得意とするグリーンリザード！
俺たちはこのカウンターを翻弄されるのか！？

次回 第19話 反撃の嵐！グリーンリザード！
イナズマイレブン

今日の格言

豪炎寺「みんなの声が聞こえるかぎり俺は強くなる」

第19話 反撃の嵐！グリーンリザード

ホワイトタイガー、合宿寮

木野「明日の相手はグリーンリザードに決まりました！」

ケイン「また優勝候補か！」

カイン「しかもよりによつてブラックドラゴンの2番目に厄介な相手だぜ！」

円堂「でも厄介でも優勝候補でも、俺たちは勝ち続けるだけだ！」

土門「そのグリーンリザードはどんなチームなんだ？」

クロナ「グリーンリザードは、別名カウンター・リザードと呼ばれてる！ディフェンス技は全てショート技でロックしてカウンターを狙つているんだ！」

夏末「確かに厄介な相手だわ。」

クロナ「でも、円堂の言つとおり、絶対勝つぞ！」

ホワイトタイガーのメンバー『おお～』

次の日の試合

王将「お待たせした！カラーアニマルカップAグループ3回戦第1試合

ホワイトタイガー対グリーンリザードの試合を行います。」

カロ「日本のゴールキーパー、円堂守くんですね？」

円堂「そうだ！」

カロ「僕はグリーンリザードのキャプテン、カロ・タリノです。よろしく。」

円堂「ああ、よろしくな！お互い全力で戦おうぜ！」

カロ「ええ（全力で戦おうですか、しかし、勝つのは僕たちグリーンリザードですけどね。）

ホワイトタイガー

FW

クロナ	9	佐久間	1
16	6	16	6
鬼道	1	風丸	M
4	2	F	F
シャドウ	12	士門	1
4	3	カイン	1
ケイン	4	栗松	5
4	3	円堂	1
カイン	4	G	K
リンク	10	リマ	M
11	9	ジム	F
カルロス	7	カルロス	D
ガブレイユ	6	ガブレイユ	F
ウィリアム	5	ネルソン	GK
4	4	3	2
パウエル	4	スレッジ	3
シユツミット	1	シユツミット	1

「ホワイトタイガー」の奴ら前の試合でやつてたポジシ

ヨンを変えてきたみたいだ！」

カロ「ポジションを変えたくらいでは、どうして事ありません。では、僕たちのカウンターを喰らわせるとしましょう」「ピィィイ

王将「さあ、ホワイトタイガー対グリーンリザードの試合が今始まりました！」

円堂「いけ〜、豪炎寺！」

豪炎寺「バー二ングサイクロン！」

王将「出た〜、豪炎寺の大技！バー二ングサイクロン！」

音無「これで1点先制です！」

シユツミット「やれやれ、ディメンションシールド！」

王将「グリーンリザードキーパー・シユツミット！ディメンションシリードで豪炎寺のバー二ングサイクロンを弾き飛ばしたあ〜！！！」

カロ「ナイスです！シユツミット！では、行きます！」

王将「おーっとグリーンリザードの必殺タクティクスカウンターウエーブが始まつたあ〜！」

円堂「カウンターウエーブ！？」

王将「ボールはカロに渡つた！」

カロ「行きます！円堂くん！ジャングルバスター！」

円堂「真イジゲン・ザ・ハンド！」

パリー

王将「入つた〜！グリーンリザード、先制！」

円堂「やるな！だが次は止めてみせる！」

クロナ「次は頼むぞ、円堂！」

佐久間「鬼道、あの技を使うぞ！」

鬼道「ああ、いよいよ特訓の成果を見せるときだ！」

王将「ホワイトタイガーの反撃だあ〜！」

風丸「クロナ！」

クロナ「ライトニングボルテック改！」

パウエル「そんなシユート、俺のシユート技で弾き返してやるよ、

大車輪！」

冬花「クロナくんのシューートを弾き返した！」

カルロス「よし…」

佐久間「うおお…」

パシッ

カルロス「なに…？」

佐久間「鬼道、いくぞ…」

鬼道「おお！」

佐久間、鬼道「エアロスイング」

シュツミット「ディメンションシールド！」

パリーン

シュツミット「なに！？ぐお！」

王将「追いついた～、佐久間と鬼道の連携技が決まって同点に追いついた！」

メロディーヌ「ワンドフォー、すごい技だつたね。」

半田「佐久間たち、いつの間にあんな技を！？」

カロ「さすがイナズマジャパンの選手、コンビネーションも抜群ですね！」

ピィピィピィイ

王将「前半終了！同点で後半に向かいます。」

カロ「では、彼等に本当のカウンターの嵐をお見せしましょう。」

王将「さあ、後半戦が始まります！そしてグリーンリザードは選手交代がでました！FWリマに代わりニール、MFガブレイコに代わりポーターズ、DFスレッジに代わりバザザを投入してきました！」

鬼道「ここで選手を入れ替えてきたか！」

円堂「ああ！」

クロナ「・・・・いよいよカウンターの台風が始まるとか」

円堂「え！？」

クロナ「あの三人があのチームの三本柱だ
ますます厄介になってきたな」

ピイイイイ

王将「後半が始まりました！」

佐久間「鬼道！」佐久間、鬼道『エアロスイング』

カロ「フツ、ニール！」

カロ、ニール『ベルホーリー！』

佐久間「なに！？」

王将「エアロスイングを打ち返した！」

円堂「ゴッドキャッチG3！うおお、ぐあ！」

ガン
円堂「あつ！－！」

パシッ

王将「ゴールポストに当たり円堂が受け止めた！」

カロ「運がいいですね。」

王将「闇野が攻め上がる！」

闇野「ケルベロスバスター！」

バザザ「クルクルヘッド！」

クロナ「ライトニングボルテック改！」

ポーターズ「キックジャブ！」

影野「さすがカウンターリザード、シユート技で跳ね返してくるな

テルリン「全く隙が無い！」

神無月「でも、それでも円堂くんたちはあきらめないよ。」

そして試合は進みホワイトタイガーはグリーンリザードのカウンターに苦戦するのだった！

カロ「そろそろ決めますか！ジャングルバスター！」

土門「俺を忘れるな！ボルケイノカット▽3！」

カロ「なに！？」

土門「風丸！」

風丸「おうー俺も決めてやる！トルネードブロー！」

シユツミット「ディメンションシールド！」

パリーン

シユツミット「うあ！」

王将「決まった！風丸の新技でホワイトタイガー勝ち越した！残り時間はあと僅か、このまま逃げ切れるのか！？」

カロ「クッ、まだです！まだ終わってません！一ール！」

カロ、ニール『ベルホーリー！』

円堂「うおおお！」

ピカ－

バー・アン

円堂「えつ！？」

カロ「なに！？」

ピイピイピイイイ

王将「試合終了！ホワイトタイガー、準決勝進出！」

カロ「負けた！フッ、負けましたよ。」

クロナ「ああ、どうしたんだ円堂！」

円堂「さつきのアレは一体？」

カロ「もしかしたら円堂くんの新たな技かも知れません。」

円堂「俺の新たな技？」

カロ「そうです！今のは失敗しても、小さな力大きな力なる！次の試合も頑張って下さい。」

円堂「ありがとうございます！カロ。よし、次の試合も勝つぞお。」

クロナたち『オオ～』

第19話 反撃の嵐！グリーンリザード（後書き）

次回予告 大会もいよいよ準決勝！次の相手は陸に上がった鮫！

第20話 陸鮫の牙 ブルーシャーク

イナズマイレブン

今日の格言

カロ「小さな力は大きな力になる」

第20話 陸鮫の牙 ブルーシャーク

王将「さあ、大会もついに準決勝！明日に行われる試合は、ブラッ

クドラゴン対パープルコンドル

2日後にホワイトタイガー対ブルーシャークの試合が行われます！

果たして決勝に行くのはどのチームなのか！」

練習グランド

鬼道「染岡！」

染岡「ドラゴンキラー！」

円堂「うおおおおおお！」

ピカ一

円堂「ぐあ！」

風丸「また失敗か。」

円堂「大丈夫、次は完成させてみせる…」

カイン「すごい自信だ。」

ケイン「試合中に技を進化させた奴だ、絶対完成させるにちがいない。」

音無「みなさん、テレビを見て下さい…」

クロナ「どうした？」

王将「試合終了！ブラックドラゴン、決勝進出！」

クロナ「やはりブラックドラゴンが来たか。」

闇野「明日の試合の相手はブルーシャークだったな！」

クロナ「ああ、次の相手も優勝候補だ。」

宍戸「全チームが優勝候補なんじゃないですか！？」

円堂「そのブルーシャークはどんなチームなんだ？」

クロナ「あいつらは地を極めし者だ。」

カイン「中でもDFでキャプテンのボルグはニュージーランド1のDFだからな！」

ケイン「俺たち兄弟より堅いディフェンスは厄介だ。」

鬼道「クロナ、明日の作戦はこれで行こう。」

次の日

王将「お待たせしました！カラーアニマルカップ準決勝！ホワイトタイガー対ブルーシャークの試合を行います！」

ボルグ「久しぶりだな、クロナ」

クロナ「また会ったな、ボルグ！」

ボルグ「悪いが決勝進出は俺たちがいただくぜ！」

ホワイトタイガー

FW

豪炎寺 10

クロナ 9

染岡 11

マックス 6

一之瀬 7

鬼道 14

アフロディ 8

D F

カイン 3

壁山 15

ケイン 4

G K

円堂 1

ブルーシャーク

FW

ゴールズ 11

シートン

M F

ガルバ 10

ガーモス 8 9

パー・シー	7
ライズリー	6
D F	
メイジ	5
バックス	4
サタン	3
ローム	2
G K	
ベイブ	1

王将「ホワイトタイガー、攻撃中心のフォーメーションに切り替えてきた！」

ボルグ「攻撃中心か、特に日本人の助つ人に要注意だぜ！」

ピィィイ
王将「今キックオフ！どんな試合をするのか！」

一之瀬「鬼道！」

鬼道、一之瀬『真ツインブースト！』

ベイブ「ソーシャークードル！」

ズシツ

鬼道「なに！？」

ベイブ「いけ！」

パー・シー「行くぜ！ダイビング！」

松野「消えた！」

パー・シー「フツ、ゴールズ！」

ゴールズ「ハンマー・ヘッド！」

円堂「うおおお！いけ！」

ピカ一

円堂「うあ！」

王将「入った！ブルーシャーク先制！」

クロナ「また失敗か！」

染岡「だが、取られたら取り返すだけだ！」

ピィイイ

染岡「いくぜー・ドラゴンキラーー！」

王将「出たー！染岡のドラゴンキラーー！」

ベイブ「ソーシャークーードル！」「ズシツ

王将「ベイブまた止めたー！そしてボールはゴールズへ！」
ゴールズ「これで追加点だぜー！ハンマーへッド！」

円堂「今度こそ、うおおおー！」

ピカー

バーン

王将「ホワイトタイガー間一髪ー！ラインを越えたー！」

ケイン「あぶねー！」

カイン「どうした、円堂？」

円堂「…………（手を大きく開いたら前よりパワーが上がった！？）」

王将「ブルーシャークのスローイングで試合再開だあー！」
カイン、ケイン「デュアルストームV2！」

ガルバ「うわー！」

カイン「マックス！」

松野「よーし！」

ボルグ「行かせん、シャークリング！」

松野「うわー！」

ボルグ「バックス」

バックス「よし！」

アフロディ「させない！」

バックス、ボルグ「なに！？」

アフロディ「いくよ！ゴッドブレイクG5」

ベイブ「ソーシャークーードル！」「パーリン

王将「ゴール！アフロディのゴッドブレイクが決まったー！これでホ

ワイトタイガー 同点だあ！」

鬼道「アフロディ、ゴッドブレイクをパワーアップさせいたのか！」
ピィピィイ

王将「ここで前半終了だあ！」

ボルグ「（くつ、後半でお返ししてやる）」

王将「まもなく後半が始まります。そしてブルーシャークは選手を入れ替えてきました！FWシートンに代わってヴェルディをDFに投入してきました！そしてなんと！！DFのボルグがFWに入ります！」

円堂「ボルグはFWも出来るのか！？」

クロナ「いや、あいつずつとDFのはず！」

王将「ええ、過去のデータによると今までボルグ選手はFWの経験はありません、一体どんなシュートを撃つのか！？」
ピィイイ

ボルグ「行くぞ、必殺タクティクス！シャークロード！」

王将「なんとこれは！まるでサメが獲物を狙っているようだ！どんどんDFラインを突破していく！」

ボルグ「いくぜ！シャークバイト！」

円堂「ゴッドキャッチG3、ぐあ！」

王将「なんてシユートだ！ボルグのシユートで勝ち越した！」

円堂「すごいシユートだ！ゴッドキャッチを破るとはな、でも次は止めてやるぜ！」

王将「試合再開し1点を追い掛けるホワイトタイガー！」

木野「FWはみんなマークされてる。」

松野「こっちは！」

鬼道「マックス！」

松野「僕も決めるよ、ホーリーランス！」

ベイブ「ソーシャーク二ードル！」

パリーン

ベイブ「ああ！」

王将「松野の新技が決まった！ホワイトタイガー同点に追い付いた！」

松野「よし！」

目金「聖なる槍でまさにホーリーランス！」

王将「さあーすごい試合になつた！お互い譲れず時間が過ぎていく！」

ボルグ「必殺タクティクス！シャークロード！」

鬼道「……はつ！ そうか！ 壁山！」

ボルグ「もらつたぜ！」

壁山「ザ・マウンテン！」

ボルグ「ぐあ！ なに！？」

ピィイ

王将「なんと！ シャークロードを破つた！！」

円堂「鬼道、なんでわかつたんだ？」

鬼道「ナイツオブクイーンの無敵の槍だ！ 解除した時がチャンスだ！」

クロナ「それを見抜くとは！」

ボルグ「くつ、まさか俺たちの必殺タクティクスが破れるとはな！」

王将「さあーブルーシャーク、ガルバのスローアイニングで試合再開！」

ボルグ「決めてやる！ 決勝に行くのは俺たちだ！ シャークロード！」

円堂「止める！ やつとコツがわかつたぜ！ はああ！」

バーン

ボルグ「なに！ シャークロードを止めてだと！ ！？」

目金「でっかく開いた手でシユートを地面に叩きつける

その名もブレイク・ザ・ハンド！」

メロディース「守くんの新しい力がついに来た！」

円堂「いけ！」

王将「豪炎寺に渡つた！ ホワイトタイガー、これがラストチャンスだ！」

豪炎寺「染岡！ バーニングサイクロン！」

王将「なんと！！これは豪炎寺のシユートニスか！？いや、これは

染岡の連携バスだあ！」

染岡「ドラゴンキラー！」

ベイブ「ソーシャーク」「ードル！」

パリーン

ベイブ「あああ！」

王将「入った！豪炎寺、染岡の連携技が決まった！」

田金「ドラゴントルネードの逆番でバー・ングキラー！」

ピィピィピィイイイ

王将「ここで試合終了のホイッスル！ホワイトタイガー、決勝進出しました！」

ボルグ「クロナ、円堂、負けたよ。お前らなら優勝出来る！頑張れよ。」

クロナ「ありがとうボルグ！絶対優勝してみせる！」

王将「さあ明後日にホワイトタイガー対ブラックドラゴンが行されます！優勝するのはどのチームなのか！？」

試合の前夜

円堂「明日の試合に備えて寝るか、ん？あれは、クロナにジャンヌ？なにしてんだ？」

ケイン「あの2人の関係はただの幼なじみじゃないんだ！」

円堂「カイン、ケイン！」

カイン「お前も聞いたろう、ジャンヌは大統師の娘だつて！」

円堂「ああ、両親が亡くなつて大統師になつたて聞いたぜ。」

カイン「クロナとジャンヌの両親はとても仲良くあの2人を許嫁にしてたんだ！」

円堂「許嫁！？」

ケイン「そなんだ、でもクロナとジャンヌは嬉しそうに喜んでた、あの2人はお互い愛し合つていたんだ。しかし今年ジャンヌが大統師になつて俺たちが負けたら。」

円堂「ブラックドラゴンが優勝したらサッカーが酷くなるだけじゃ

なく2人は永遠に結ばれないって事が！だが俺はブラックドラゴンのやり方は許せない！明日絶対優勝して楽しいサッカーを守るんだ！」

ケイン「ああ、ケガをしたみんなのために絶対負けられないぜ！」
カイン「おう、絶対優勝しようぜ。」

次の日

王将「さあついにこの日が来た！カラーニマルカツプ決勝戦！！ホワイトタイガー対ブラックドラゴンの決戦が始まります！果たして優勝するのはどのチームなのか！？」

ゲオン「（ついにこの私が大統師になる時が来た！フツフツフツ！）

「

第20話 陸鮫の牙 ブルーシャーク（後書き）

次回予告 カラーアニマルカップもついに決戦、ブラックドラゴンの力がホワイトタイガーに襲いかかる！

第21話 邪惡なる黒き竜 ブラックドラゴン！
イナズマイレブン

今日の格言

ケイン「ケガをしたみんなのために絶対負けられない。」

第21話 邪悪なる黒き竜 ブラックドラゴン

ボルグ「いよいよか、円堂にとつて少し大きな舞台だ。」

レジー「お前も来たのか！」

ボルグ「レジー、リキット、カロ、！お前らも来たか！」

カロ「僕達も円堂くんの事が気になつてきました！」

リキット「ホワイトタイガーがブラックドラゴンに勝てるかどうかだな。」

円堂「ついに決勝戦だな、クロナ！」

クロナ「ああ、ブラックドラゴンは今までの相手とは違うーみんな、

氣をつける！」

ステイーブ「監督、指示を。」

ゲオン「・・・潰せ。」

ステイーブ「はい！」

ホワイトタイガー

FW

豪炎寺 10

クロナ 9

染岡 11

MF

アフロディイ 8

鬼道 14

佐久間 16

D F

風丸 2

カイン 3

ケイン 4

栗松 5

G K

円堂 1

ブラックドラゴン

FW

ステイーブ 10

MF 11

リコ 11

ゴメス 8

ニド 9

マット 7

ログ 6

DF 5

ココル 4

ロラン 4

ココル 5

ネルソン 3

シスラー 2

GK

ガズリー 1

ピィイイイイ

王将「さあ、運命の決戦が今キックオフ！」の試合に勝つのはどちらなのか！？」

リコ「ステイーブ！」

ステイーブ「いくぜ！竜の顎は全てを碎く、リュウノアギト！」

円堂「ブレイク・ザ・ハンド！つか！」

王将「ゴール！ブラックドラゴン、ステイーブのショートで1点先制！」

夏末「円堂くんのブレイク・ザ・ハンドが破られた！？」

土門「なんてパワーだ！」

円堂「くそ、（んっ！？手を握りしめたらなんか力が）」

王将「さあ、試合再開だあ！」

ステイーブ「追加点だ！」

カイン、ケイン『デュアルストーム▽3』

ステイーク「ぐあ！なに！？」

ケイン「豪炎寺！」

豪炎寺「バー・ニングサイクロン！」

神無月「出たわ！バー・ニングサイクロン！」

テルリン「これで同点だわ！」

ガズリー「リュウノバイト！」

ガブツ

王将「止めた！」

ステイーク「んっ！？監督の指示！」

ゲオン「DFの2人をやれ。」

ステイーク「……はい！」

ステイーク「お前ら、やれ。」

王将「マットが上がつていいく！」

カイン「任せろ！」

マット「二ド！」

カイン「うつ！…うわああ！」

ケイン「アニキ！」

マット「ステイーク！」

ケイン「あつ！」

ステイーク「リュウノアギト！」

ケイン「ぐあああ！」

円堂「ケイン！うわあ！」

王将「ゴール！ステイークのショートがケイン」とゴールに入った

！ブラックドラゴン、追加点だあ！」

円堂「イテテ！」

ケイン「ううう！」

カイン「ケイン！うあ！」

王将「なんと！カイン、ケイン、負傷か！？」

円堂「どうだ？」

木野「これ以上出場はムリよ。」

クロナ「くそつ、ブラックドラゴンめ。」

円堂「壁山、土門、行くぞ！」

土門「おう！」

壁山「はいっス！」

王将「DFカイン、ケインに代わり壁山、土門が入りますー。」

ゲオン「フッ」

鬼道「アフロディ！」

ココル「ドラゴンスティング！」

アフロディ「うあ！」

グキツ

アフロディ「うつ！」

佐久間「鬼道！」

王将「出るか！？エアロスティング！」

ロラン「メテオシールド！」

佐久間「ぐあ！」

ピィイ

鬼道「佐久間！」

アフロディ「大丈夫かい？」ううう！」

円堂「アフロディ！」

王将「ホワイトタイガー、また負傷者が出てしまった！」

アフロディ「僕は大丈夫だ！まだ戦える」

佐久間「俺も行けるぜ。鬼道！」

クロナ「ありがとう。だがムリするな。後は俺たちに任せてくれ。」

王将「MFに一之瀬、松野が出場。」

ピィイ

クロナ「ブラックドラゴン、もう許さないぞー俺たちは絶対勝つ！」

真ライト「ングボルテック！」

ガズリー「リュウノバイト！」

バリーン

ガズリー「なに!? ぐあ！」

王将「ゴール！ ホワイトタイガーついにガズリーから点取った！」
れで1点差になりました！」

ステイー・ブ「バカな！？」

ゲオン「・・・そいつも潰せ、徹底的にやれ。」

ステイー・ブ「しかし監督、それはやりすぎでは？」

ゲオン「私の命令が聞けんのか？」

ステイー・ブ「・・・わかりました！」

王将「残り1点を追うホワイトタイガー、追いつけるのか！？」

クロナ「よし、いくぜ！」

ステイー・ブ「やるしかないか。」

リコ「アタックアロー！」

クロナ「うわあ！」

マット、ニド『じ』ぐぐるま!』

クロナ「ぐあ！」

円堂「クロナ！」

クロナ「くつ、あつ！」

ステイー・ブ「うおお！」

ドガッ

ステイー・ブ「うわああ！」

バタツ

ピィイ

円堂「クロナ！」

王将「あ～と！ ホワイトタイガー キャプテンクロナ倒れた！」

円堂「大丈夫か、クロナ！？」

クロナ「くつ、すまない円堂。」

音無「クロナさんはもうムリです！」

クロナ「円堂、俺の代わりにコレを。」

円堂「それは、キャプテンマーク！」

クロナ「今はお前に託したい、頼む！」

円堂「わかつたぜ！クロナ」

王将「さあホワイトタイガー 最後の選手交代だ、クロナに代わり闇野が入ります！」

ステイーク「これで終わりだ！リュウノアギト！」

円堂「絶対止める！はあ！」

ガシャーン

ステイーク「なに！？」

神無月「やつた！止めた！」

目金「ゴールと言つ名の門を守る守護神！名付けてゲートガー『ディアン！』

クロナ「円堂、また試合中に新たな技を！」

円堂「いつけ！」

リコ「喰らえ！」

栗松「真まほろじドリブル！」

リコ「なに！？」

ステイーク「さつきより動きが良くなってる！」

栗松「一之瀬さん！」シスラー、ネルソン『行かせない！』

一之瀬「うおお！」

スウ

王将「一之瀬、華麗にかわした！」

一之瀬「豪炎寺！」

豪炎寺「バーニング！」

染岡「キラー！」

ガズリー「リュウノバイト！」

バリーン

ガズリー「うわああ！」

円堂「やつた！」

王将「ゴール！ホワイトタイガーフイに同点だあ！」
ピィピィイイ

王将「前半終了！後半で勝ち越すのはどうだ！？」

ステイーブ「同点か！」

ゲオン「やつてくれたな！役立たず共！」

ステイーブ「え！？なぜですか！？」

ゲオン「大会前に完璧な勝利をしろと言つたはずだ！」

ステイーブ「待つて下さい！まだ同点です、必ず勝ち越してみせます。」

ゲオン「黙れ、貴様らもう使用済みだ！」

鬼瓦「使用済みになるのはお前だ！」

ゲオン「誰だ？」

鬼瓦「警察だ！お前に聞きたい事がたくさんあるんだ！ゲオン・ニコルソン、お前を逮捕する！」

円堂「鬼瓦刑事！」

鬼瓦「よお、円堂くん！」

冬花「なんでここに！？」

鬼瓦「この子に呼ばれてな。」

クロナ「ジャンヌ！？」

ゲオン「私に何のようだ。」

ジャンヌ「あなたの事調べたんですね！ホワイトタイガーのメンバーの事故について。」

鬼瓦「それはお前がホワイトタイガーを出場させないために仕組んだ事だ。お前一人でな。」

ケイン「あいつ一人で！？」

カイン「じゃあブラックドラゴンは本当に知らなかつたのか！？」

鬼瓦「それだけじゃない、お前はジャンヌの両親を殺害しジャンヌを大統師にさせブラックドラゴンを優勝させれば大統師になれるという企みだ。そうだろ！」

ステイーブ「監督、どうゆう事ですか！？俺たちが外道と言われてる事も監督の仕業ですか！？」

ゲオン「…………」

「そうだよ、ホワイトタイガーの事故もジャンヌ

の両親も私がやつたんだ。お前たちが優勝すれば私が大統師になりこの大会を思い通りになるのだからな！」

ステイーブ「俺たちはあんたに利用されてたんですね。」

ゲオン「だが貴様らはもう使用済みだからな！』

ステイーブ「ふざけるな！」

バーン

ゲオン「うわあ！！！」

バシック
しゅく

クロナ「円堂！」

ステイーブ「なぜそいつをかばう！そいつはホワイトタイガーのメンバーを！」

円堂「サッカーボールは人に当てる物じゃない！サッカーをやるための物だ！」

鬼瓦「連行しろ。」

警官「はっ！」

ステイーブ「くつそー！俺たちがやつた事は全部悪いことだったのかよ！」

クロナ「ステイーブ。」

ステイーブ「何だよ、俺らを笑いに来たのかよ！」

クロナ「いや、お前たちが外道と言われてたのは俺らの勘違いだった、すまなかつた。」

ステイーブ「いいよ、俺らにサッカーやる資格はない、ホワイトタイガーの勝ちだ。」

円堂「本当にそれでいいのか！？ステイーブ。それで納得するのか！？」

ステイーブ「日本人のお前に何がわかる！俺らがやつた事は許される事じやないをだ！」

円堂「わかる！今まで俺はサッカーを汚す奴と試合をした。だが最後まで戦つたんだ！だからお前たちと最後まで戦いたい！」

ステイーブ「円堂！・・・・俺、間違つてたかもしれない。円堂、本当の勝負だ！」

円堂「ああ、望む所だ！」

ステイーブ「クロナ、すまなかつた。お前たちをケガさせてしまつて！」

クロナ「大丈夫だ。それにあいつと戦つてみろー。円堂と戦つと見な事ない世界が見えるかもしだいぞ！」

ステイーブ「見た事ない世界？」

王将「さあ後半が始まります！優勝するのはどっちだ！」

第21話 邪悪なる黒き竜 ブラックドラゴン（後書き）

次回予告 ゲオンから解放され、自由になつたブラックドラゴンが
新たな力をホワイトタイガーに見せてくる。

第22話 決着のとき 白き虎VS黒き竜

イナズマイレブン

今日の格言

円堂「サッカーボールは人に当てる物じゃないサッカーをやるために
の物だ！」

第22話 決着のとき 白き虎VS黒き竜

王将「カラーニーマルカツブ決勝！いよいよ後半戦が始まります！キャプテンクロナが負傷し日本で活躍する雷門のメンバーになつたホワイトタイガー、ゲオン監督が連行され自由になつたブラックドラゴン、この試合し勝利し頂点に立つのはどつちなのか！？」

ステイーブ「（見た事ない世界、それは一体？）」
ピィィィ

王将「さあ後半戦始まつた！」

リコ「ステイーブ！」

ステイーブ「リュウノアギトV2！」

円堂「ゲートガードイアン！」

パリー

円堂「なつ！？」

ピィィ

王将「ブラックドラゴン、ステイーブのシユートで勝ち越した！」
クロナ「ステイーブのリュウノアギトが進化した！」

アフロディ「また円堂くんが相手の力を引き出したみたいだ！」

メロディーヌ「相手の力を引き出した！？でも守くんは仲間の力しか引き出さないんじゃ！？」

半田「あいつは敵味方関係無く力を引き出すんだよ。」

神無月「敵味方関係無く！？」

メロディーヌ「やつぱり守くんはすごい！」

テルリン「でも1点差で負けてるよ！」

ステイーブ「俺の技が進化した！もしかして、これが見た事ない世界！？」

クロナ「あいつ、見えたみたいだ。」

円堂「すごいパワーだ！やつぱりあいつはすごいぜ！」

豪炎寺「だが、俺たちは負けない！バーンング！」

染岡「キラー！」

ガズリー「ステイーブは見た事ない世界が見えた、俺たちも見てみたい。ゴッドフインガー！」

しゅう

王将「止めた！ガズリー、新技でバーニングキラーを止めました！」

豪炎寺、染岡『なに！？』

テルリン「円堂くん、キーパーの力も引き出したみたい！」

ステイーブ「もう一発いくぜ！リュウノアギト▽2」

円堂「もう点はやらない！ゲートガーディアン▽2」

ステイーブ「なに！？」

ケイン「円堂のゲートガーディアンも進化した！」

カイン「いいぞ、円堂！」

円堂「いけつ風丸！」

王将「DF風丸、上がっていく。」

風丸「トルネードブロー！」

ガズリー「よし、止められる！」

松野「いただき！」

ガズリー「なに！？」

松野「ホーリーランス！」

ガズリー「ゴッドフインガー！」

バーン

ガズリー「ああ！」

王将「入った！風丸から松野へのショートチェインが決まった！ホ

ワイトタイガー、同点だあ！」

円堂「いいぞ、風丸、マックス！」

闇野「いけつマックス、ケルベロスバスター！」

松野「ホーリーランス！」

王将「闇野から松野へのショートチェインだあ！これは決ましたか！？」

ガズリー「ゴッドフインガーG2！」

神無月「相手のキーパーの技も進化した！」

ステイーブ「ナイスだ、ガズリー！」

王将「さあ試合は後半になつて激しい展開になつてきた！今までのカラーアニメマルカツプにない試合だあ！」

ステイーブ「ハアハア、さすが世界一になつたキャプテンだ。」

ガズリー「ステイーブ、いくぜ！」

円堂「なに？」

王将「なんとキーパーガズリー オーバラッブ！」

ステイーブ「いくぜ円堂！」

ステイーブ、ガズリー『ツインヘッジドラゴン！』

王将「これは！！2つの顔のドラゴンが『ゴールを襲う！』

円堂「ゲートガーディアン▽2！」

パリーン

円堂「ああ！」

鬼道「うおお！」

ガアーン

王将「鬼道がゴールを守つた！ブラックドラゴン、『ゴールならず！』

円堂「助かつたぜ、鬼道！」

鬼道「ああ、だが喜ぶのはまだ早い。」

王将「ブラックドラゴンの攻撃はまだ続く！」

佐久間「これがブラックドラゴンの本当の力なのか！？」

クロナ「俺もステイーブたちがここまでやるとは思つてもいなかつた。」

王将「ボールはステイーブへ！円堂と1対1になつた！」

ステイーブ「（クロナ、円堂、お前たちが言つてた見た事ない世界の意味がわかつたぜ、それは）サッカーが楽しい世界だ！リュウノアギト▽3！」

メロディーヌ「また進化した！」

円堂「ステイーブ、お前はすごいぜ！だが、俺も強くなる…ゲートガーディアン▽3！」

しゅ

ステイーブ「あつ！」

木野、音無『やつた』

ジャンヌ「円堂さん、やはりあなたを選んで正解でした！」

ステイーブ「円堂、お前は本当にすごい奴だ！」

王将「ここでロスタイルに入った！先に点を取るのはどのチームなのかー？」

栗松「いくでヤンス！」

ニド、ゴメス、リコ『行かせない！』

円堂「栗松！」

栗松「キャプテン！」

ブラックドラゴン『なにー？』

王将「あーとー円堂が上がって来た！残り時間がわずかで円堂も攻撃参加だあ！」

円堂「一之瀬！」

一之瀬、円堂、土門『ザ・フェニックスバレイイイイー！』

ガズリー「俺たちは負けない！絶対勝つんだー！ゴッドフィンガアア

アアG3！！！うおおおー！」

バーン

ガズリー「なあつーー！」

ピィイイイ

王将「入ったーー一之瀬、円堂、土門の連携技でホワイトタイガーフ
いに勝ち越しーー！」

ピィピィピィイイ

王将「試合終了ー！カラーラー＝マルカップを制したのはホワイトタイ
ガーだああー！」

ココナ「負けた！」

ステイーブ「ああ、だが全然悔しくない、むしろ清々しい気分だー！」

クロナ「ありがとう、円堂ー！」

円堂「あーー！」

飛行場

クロナ「世話になつたな円堂。」

円堂「ああ、またな！」

レジー「俺達に挨拶無しつてのはひどくねえか？」

円堂「レジー、リキット、カロ、ボルグ、ステイーブ！」

カロ「僕たちも円堂くんに別れ言いたくてね！」

リキット「来年お前と戦えないかも知れぬけど、また戦うのを楽しみにしてる！」

ステイーブ「これは俺達と戦つた印だ」 円堂「サッカーボール？」

風丸「良く見る全員のメッセージだ！！」

円堂「本当だ」

新しい俺達の技を見せてやる ステイーブ

暴れ牛の底力を見せてやるぜ レジー

真のサメの恐怖を味あわせてやる ボルグ

お前らの作戦の裏を何回でもかいしてやる リキット

君達のシユートを全て弾き返してあげましょう カロ

またサッカー やりうつぜ！－円堂－！－！－ メンバーより

円堂「ありがとうみんな！」

ステイーブ「円堂、俺達は新たな一步を踏み出す、そして本当の栄光を手に入れる。」

円堂「頑張れよ！」

「オーッ

クロナ「行つたな。」

ステイーブ「ああ、クロナ、来年は本当の勝負をしようぜ」

クロナ「そうと決まれば早速特訓だ！」

レジー「円堂の特訓癖が移つたか？」

クロナ「ククツ、かもな」

ニュージーランドでの戦いは終わつた

だが、円堂はこれから起つる出来事をまだ・・・・・ 知らない

第22話 決着のとき 丘を虎アシカVS黒毛鹿（後書き）

次回予告 ニュージーランドから帰ってきた俺達、あれ?このメンバーは!!

第23話 未来の戦士 再集結

イナズマイレブン

今日の格言

ステイーブ「俺達は新たな一步を踏み出す!そして本物の栄光を手に入れる。」

オリキヤラ設定・・・・?

ロン・スコーピオンパート2

かつて円堂と死闘を繰り広げた元ダークマップのキャプテン!今は生まれ変わったチーム、キングワールズのキャプテン!円堂と共に未来を救いに行く!

ポジション FW MF

必殺技 キングダムブレード、キングダムブレードV2、キングダムブレードV3、ナックルバースト、チエックメイト

ロディ・ポールド

特徴髪型と色は赤いショートヘア

イナズマ王国の元王子 サッカーチームに所属していたが自己中心のメンバーに嫌気が差し、チームを解散させる

父親であるルイ大王の気まぐれにも嫌気が差し、家出して、港で趣味である釣りをしながら生活している

年齢 14歳

必殺技 グリフオンスピアー、グリフオンスピア改、真グリフォンスピアー、パーセクトスマッシュ
ザンデ・ミスリル

未来のイナズマ王国の支配者、ヒビキ提督に使われるジェネラルのキヤプテン、バツダブ率いるオーガを圧倒的な力で上回る

ポジション FW

必殺技 閻魔の裁き

第23話 未来の戦士 再集結

「ユージーランドから戻つて一週間後

風丸「トルネードブロー！」

円堂「ゲートガーディアン▽3！」

しゅう

久遠「響木さん、円堂、私たちが見ない間にまた力を身に付けたようですね。」

響木「そうだな。だが円堂だけじゃない、あいつらも進化している。」

壁山「キャプテン、ゴールを守るとき輝いてるツス。」

栗松「本当、輝いて・・・・って！光つてヤンス！！」

円堂「なんだ！？」

？？？「付いた！」

円堂「誰だ！？」

？？？「はじめまして、ひいじいちゃん。」

円堂「ひつ！ひいじいちゃん！？」

メロディース「てことは、守くんのひ孫つて事！？」

音無「まさか、そんな事つて！」

？？？「俺、円堂カノン！」

神無月「名字は一緒のようだけど。ひ孫つて事は、未来から来たつて事？」

カノン「そう、俺、未来から来たんだ！その証拠はコレ！」

木野「なにそれ？」

一之瀬「なんかの古いノートのようだけど。」

円堂「それは！じいちゃんの秘伝書！」

神無月「なんであなたがコレを！？」

カノン「俺もサッカーやつてるからだ！」

豪炎寺「その未来から来たお前がなぜここに来たんだ！」

カノン「あつ…そつだつた、じつはひいじいちゃんたちに未来に来てほしいんだ！」

夏末「円堂くんたち？ 場所はどこなの？」

カノン「未来のイナズマ王国。」

円堂、神無月『イナズマ王国！』

木野「それって、眞実の石版で行つたつて。」

カノン「悪人はイナズマ王国を攻めてサツカーを戦闘の武器にしてるんだ！ 過去のイナズマ王国を救つた戦士が未来でも有名だから一緒に救つてほしいんだ！」

円堂「…・・・わかつた！」

カノン「本当！？ひいじいちゃん！」

円堂「ああ、サツカーは戦闘の武器じゃないって事教えてやるぜ！」

鬼道「未来の戦士と言うと佐久間に虎丸、アフロディたちだな。」

木野「円堂くん、私たちも行くわ！」

円堂「えつ！？」

冬花「マネージャーのサポートも必要になるから。」

神無月「私も行く！ 私も過去に行つた事あるから。」

メロディーヌ「愛や守くんが行くならミーもー。」

円堂「ありがとう、みんな！」

豪炎寺「早速イナズマ王国を救つたメンバーを集めるか。」

かしかの森

飛鷹「過去のイナズマ王国を救つたメンバーが再び集結するとはな。」

ヒロト「円堂くんのひ孫が来るのは、すごい事が起るんだね。」

カノン「みんな集まつたね。では、未来へ出発！」

キラーン

一方未来のイナズマ王国

ヒビキ提督「1人のガキが戦士を集めてるそつだな！」

部下A「どういたしましょ？」

ヒビキ提督「今はほつておけ、好きにさせろ。」

部下A「はつ！」

そして円堂たち

円堂「付いた！のか！？」

テルリン「未来にちや、なんかヘンだわ！」

カノン「ごめん、間違えて過去に来ちゃった！」

ヘラ「なんだと…じやあタイムスリップは？」カノン「失敗しちゃつた！」

寺門「失敗したならもう一回だ！」

カノン「それはムリだ！」

神無月「なんで？」

カノン「バッテリーが切れたんだ！」

円堂「それじゃあ、俺たちは帰れないって事か！？」

カノン「大丈夫、自然に充電出来るから。」

木野「良かつた。」

カノン「でも、充電出来るまで3日はかかる」

戦士『3日…！…』

デメテル「そもそもここはどの時代だ？」

カノン「ひいじいちゃんたちがダークマップに勝利して4ヶ月後の時代だよ。」

円堂「そうだ！ロンだ！」

夏末「ロンって、ダークマップのキャラテンだった。」

円堂「ああ、ロンを仲間にすれば！」

神無月「なんか心強そう！」

円堂「どうせ3日はかかるし、何もしないほうよりマシだよ。」

鬼道「そうだな。だつたら言ってみるか、イナズマ王国の城へ」
イナズマ王国の城

兵士「あつ、エミリア姫様！」

エミリア姫「どうしました？」

兵士「懐かしの人來ました！」

エミリア姫「懐かしの人？誰かしら？…あつ！」

巴堂「こんにちは、エミリア姫。」

木野「あの人があのエミリア姫！」

エミリア姫「巴堂さん、皆さん…なぜここ…？」

巴堂たちはエミリア姫に訳を話した

エミリア姫「じゃあ、カノンさんは巴堂さんのひ孫で未来に行くつもりが間違えてこの時代に来た訳ですね。」

巴堂「はい、だからロンを仲間にするためにここにきました！」

エミリア姫「そうですか、キングワールズのメンバーはお城の裏にいます。」

鬼道「キングワールズ？」

エミリア姫「ロンさんたちがやり直したいとみんなで考えた新たなチーム名です。」

城の裏

神無月「お城の裏にマンションが建つてる！」

エミリア姫「お父さまがロンさんたちに酷い事したお詫びにマンションを建てたんです。奥に練習グランドもあります。」

虎丸「練習グランドまであるんですか！」

練習グランド

ロン「そりや！」

ゲープ「ああっ！」

レノン「ナイスショート！」

ロン「おうっ！・・・・・」

ゲープ「やはり忘れられないんだな、巴堂の事が。」

ロン「ああ。」

カン「でも俺たちとあいつの時代は違うからな。」ロン「確かに住む時代が違う、だが、エミリア姫が言つてたんだ。」

3ヶ月前 中庭

ロン「・・・・・」

エミリア姫「巴堂さんの事が忘れられないのですね。」

ロン「エミリア姫！」

エミリア姫「あの時はこの眞実の石版で呼びましたね。」

ロン「俺、サッカーやってるとあいつを思い出します。本当のサッカーを思い出させてくれたのは、円堂でした。だが、俺の本当のサッカーは何か忘れてしました。もうあいつには会えないのかな。エミリア姫「それはわかりません、時代は違うかもしだせません。でも、気持ちがこもっていれば願いは叶う物です。」

そして現在

カン「エミリア姫らしい説得だな。」

円堂「ローン！」

ロン「ん!? 気のせいか!? 今円堂の声が。」

円堂「ローン！ お~い！」

ロン「えつ、円堂！ お前なのか！」

円堂「ああ、俺だよ。」

ピート「未来の戦士のメンバーもいるぞ！」

ディップ「女子もたくさんいる、マネージャーかな。」

円堂「ロンに頼みがあつてここに来たんだ。」

ロン「俺に頼み？」

円堂はロンに頼みと訳を話した

ロン「未来を救うために俺を仲間にするためにここに来たのか！」

円堂「あの時のお前のシユート、すごかつたからな、きっと力なると思つたんだ。」

ロン「…………わかつた！ 俺も行くぜ！」

円堂「本当か!?」

ロン「ただし、条件がある！」

神無月「条件？」

ロン「俺たちキングワールズと勝負だ！」 戦士たち『!!!!』

鬼道「お前たちと試合を！」

ロン「ああ、俺たちもうダークマップじゃない、だからお前たちに生まれ変わったお前たちを見せてやるぜ！」

円堂「わかった！ その勝負受けて立つ！」

ロン「そうこなくちや。」

円堂「俺たちが勝つたら仲間になるんだな！」

ロン「ああ、なるぜ！場所は俺たちとお前たちと戦ったイナズマスタジアムだ！」

音無「なんかすごい事になりそうですね！」

ロン「そうと決まれば、早速イナズマスタジアムに行くぜ！」

イナズマスタジアム

冬花「ここがイナズマスタジアム、観客もたくさんいますね。」

メロディーヌ「愛はここに入つたんだよね。」

神無月「うん。」

ジユリー「さあイナズマ王國の皆わんー！」の試合はなんと…元ダーキマップであるキングワールズ、対戦相手わが国を救つた円堂くん率いる未来の戦士です！」

ルイ大王「まさか円堂くんたちに再び会えるとは。」

エミリア姫「お父さま。」

神無月「ルイ大王様、お久しぶりです。」

木野「あの人ガルイ大王！」

音無「キャプテンとお兄ちゃんの話でとても気まぐれな王様つて人ですね。」

エミリア姫「最近お父さまは気まぐれじやなくなつたんです。」

ルイ大王「私の気まぐれのせいでこうなつたのだからな。」

ジユリー「さあもなく試合がはじまります！」円堂とロンの試合が再び始また。円堂たちはこの試合に勝つてロンを仲間入り出来るのか！

第23話 未来の戦士 再集結（後書き）

次回予告 ロンと再び激突 キングワールズの力とは

第24話 再激突 円堂ＶＳロン

イナズマイレブン

今日の格言

エミリア姫「気持ちがこもつていれば願いは叶う物」

第24話 再激突 円堂VSロン

円堂のひ孫、カノンに未来を救う事になつた円堂たち。しかし間違えて過去に来てしまったが、ロンを仲間にするために試合をする事になつた

豪炎寺「円堂、ロンと試合をするの久しぶりだな。」

円堂「ああ、あいつらがどんなサッカーするのか楽しみだぜ！」

未来の戦士

豪炎寺

虎丸

デメテル

MF

ヒロト

アフロディ

鬼道

佐久間

D F

ヘラ

飛鷹

寺門

キングワールズ

FW

レノン 1 1

ロン 1 0

MF ライン 9

ワイルズ8

ジェイ 7

デイブ 6

D F ピート 5

カン 4

バクラー 3

ケイン 2

G K ゲーブ 1

ジュリー「キャプテン円堂とロンの戦いが再びやってきたー・ビのよ
うな試合が繰り広げられるのでしょうか！」

ピィィィ
ジュリー「試合が始まりました！」

ヒロト「虎丸くん！」

ワイルズ「いただき！」

バシッ

ヒロト、虎丸『あつ！』

ワイルズ「ロン、いけ！」

ロン「いくぞ円堂、これが生まれ変わった俺の必殺技だ！」

キングダムブレード！」

円堂「マジン・ザ・ハンド…ぐあ！」

ピィィィ

ジュリー「『ホール！ロンくんの必殺技、キングダムブレードが決ま
りました！』

ロン「よっしゃ、決まった！」

円堂「これが、ロンの新しい力なのか…？」

ジュリー「1点取られた未来の戦士、反撃なるか。」

円堂「なんだ！」

ジュリー「これは…キングワールズ正面をあけました！」

ゲープ「こい、イナズマブレイク！」

鬼道「そういう事か、円堂、豪炎寺いくぞ！」

ジユリー「この体勢は！ ゲープくんから1点取ったイナズマブレイクの体勢です！」

鬼道「イナズマブレイク▽2」

ゲープ「聖なる神殿！」

ガン

鬼道、円堂、豪炎寺『なに！』

ジユリー「イナズマブレイクを止めるなんて！」

神無月「イナズマブレイクを止めるなんて！」

木野「始めからイナズマブレイクを止める自信があったのね！」

ロン「どうだ、円堂。俺たちはあの時から強くなつた。だから全力

でお前たちに勝つ！」

円堂「ああ、望む所だ！」

ジユリー「未来の戦士対キングワールズの試合は思わぬ展開になりました！」

ライン「俺もいるぞ！ ジャンピングキック！」

円堂「ブレイク・ザ・ハンド！」

バーン

ロン「円堂の新技か。やるな。」

冬花「神無月さん、ロンくんたちあんな風だったんですね？」

神無月「ううん、ダークマップの時は憎しみを抱えてサッカーをやつてたの。円堂くんとサッカーをやってからあんなに楽しんでるの。

豪炎寺「バーニングサイクロン！」

ゲープ「聖なる神殿！」

ガン

ジユリー「豪炎寺くんも新技を出した！ しかし聖なる神殿破れず！」

ピィピィイイ

ジユリー「ここで前半終了です。」

鬼道「ダークマッシュの時より強くなってるな。」

アフロディ「しかしこの試合に勝たないとロンは仲間にできないよ。」

「

円堂「大丈夫、次は止めてみせる!」

テルリン「後半で勝てるかな!?」

木野「大丈夫よ、円堂くんはこのくらいで終わらないから。」

ピィィィ

ジュリー「後半戦スタートです!」

ピート「レノン!」

レノン「任せろ!」

飛鷹「行かすか! 真空魔▽3! アフロディ!」

アフロディ「真ヘブンズタイム。」

デイブ、バクラー『うあ!』

虎丸「アフロディさん!」

アフロディ「虎丸くん!」

虎丸「グラディウスアーチ!」

ゲープ「聖なる神殿!」

ガン

ゲープ「さあ追加点だ!」

ロン「いるぞ! キングダムブレーード!」

円堂「成長したなロン、でも、未来を救うために俺たちも負けられないぜ!」

マジン・ザ・ハンド改!」

しゅ〜

ロン「なに! 進化した!」

円堂「鬼道、豪炎寺!」

ジュリー「またイナズマブレイクを撃つのか!?」

ゲープ「任せろ!」

鬼道「イナズマブレイク▽3!」

ゲープ「聖なる神殿!」

ピキッピキピキ

ロン「なつ！女神の加護を受けし神殿がっ――！」
パリイイイイイ！

ゲープ「うわあつ――！」

ジュリー「『ゴール！聖なる神殿敗れる！未来の戦士、同点です！』
ゲープ「まさか聖なる神殿を破るとは――！」

ロン「円堂が進化するとチームメイトも進化するのか、俺もあいつ
といつしょにサッカーするとどうなるんだろうな。」

メロディース「イナズマブレイクも進化した！すごいよ。」
豪炎寺、虎丸、ヒロト『グランンドファイアG3-』

ゲープ「前よりパワーアップしてる！だつたら、はああ！」
バシツ

ゲープ「ぐあ！」

ロン「うおお！」

ガン
ピイイ

ジュリー「ロンくん、『ゴールを守りました！』

ゲープ「ロン、助かつたぜ。」

ロン「あの技を使うつもりだつたのか？」

ゲープ「だが失敗だ。」

ロン「失敗してもいい、自信を持って！」

ゲープ「ああ！」

鬼道「ゲープ、今何かしようとしてた、しかし失敗だつたがな。」

ジュリー「キングワールズのスローイングで試合再開です！」

ロン「レノン、ライン、あの技でいくぞ！」

ライン、レノン『おおー..』

ロン、レノン、ライン『チエックメイト！』

神無月「なに、あの技！？」

テルリン「なんかすごい！」

円堂「すごい技だ！でも、止めてみせる！」

「ゴッドキャッチG4！」

しゅ～

ロン、レノン、ライン『なに～！』

ジュリー「なんと円堂くん、チェックメイトを止めました！」

ロン「バカな！俺たち最強の必殺技だったのに！」

エミリア姫「すつ、すごい！チェックメイトを止めるなんて！」

ジュリー「残り時間は2分を切った！」

円堂「さあみんな、最後の攻撃だ！」

ジュリー「円堂くんオーバーラップ、この攻撃が決勝点のチャンスとなるのかー？」

円堂「いくぞ、豪炎寺、虎丸！」

円堂、豪炎寺、虎丸『ジエツトストリーム！』

ロン「なんだ！この技はー？」

ゲープ「はああ！止める、うおおー！つゝ、うわあつー！」

ピィイ

ジュリー「ゴール！入りました、未来の戦士、勝ち越し！」

ピィピィピィイイ

ジュリー「試合終了！未来の戦士が勝ちました！」

カノン「すごい試合だつたな。」

円堂「ロン、楽しかつたぜ。」

ロン「俺もだ。」

円堂「俺たちの仲間になつてくれるかー？」

ゲープ「行けよ、ロン。はじめから仲間なるつもりだつたんだる。」

円堂「そうなのかー？」

ロン「まつ、そんなとこだな。これからよろしく、円堂。」

円堂「よろしくな、ロン。」

ピート「ところで、未来を襲つた奴らはどんな奴らだ？」

カノン「噂によると、オーガをも超える最凶のチームだ」

ルイ大王「最凶のチーム！」

ロン「今の人数じゃ、たりないかもな。」

エミリア姫「カノンさん、これは正式試合ではないんですよね？」

カノン「はい。」

エミリア姫「でしたら、2チームの人数で行くのはどうですか！？」

寺門「それは名案ですね。」

音無「今的人数は13人だから、後9人ですね。」

エミリア姫「8人です。」

音無「えつ！？」

エミリア姫「1人はすでに決めています。」

夏末「でも後8人はどうするんですか？」

鬼道「この時代にすごいプレイヤーがいるんですか？」

エミリア姫「いいえ、後の8人は円堂さんたちの時代からです。」

円堂「ええ！」

佐久間「でもどうやって？カノンのマシンはバッテリー切れですし。

エミリア姫「私に任せて下さい。」

第24話 再激突 円堂VSロン（後書き）

次回予告 ハミリア姫のアイデアとは…?
なつ！－おまえらは！

次回

第25話 集いし新たなる戦士！！
イナズマイレブン

今日の格言

ロン「失敗してもいい、自信を持て！」

第25話 集いし新たなる戦士

中庭

円堂「そうか、眞実の石版でいつしょに戦つてくれる人を呼ぶのか。

」

メロディーヌ「愛と守くんもこれに吸い込まれてここに来たんだね。

」

エミリア姫「では、円堂さんとサッカーやってくれる方を呼びます。眞実の石版、どうか私のお願ひを聞いて下せ!」

現在 河川敷のグラウンド

風丸「円堂たち、今頃未来で頑張ってるだらうな。」

染岡「ああ、そうだな!だが、俺たちに力があれば円堂と共に戦えただらうな。」

風丸「染岡、もう力にこだわるはやめようぜ。」

染岡「えつ!?

風丸「力を求めすぎたせいで、ダークエンペラーズなつてしまつた

んだ。」

染岡「そうだつたな、もう助けれっぱなし!めんだけ。」

ピロロロロン

風丸「んつ?メールだ。」

染岡「俺のも鳴つてる!なんだこれは?」

風丸「矢印が出てる、コレをたどつて行けつて事か。」

5分後

風丸「この先かしかの森だぞ。」

染岡「てことは、円堂が言つてた眞実の石版がある森か!?」

壁山「風丸さん、染岡さん!どうしたんッスか?」

風丸「壁山!お前も考え!?」

壁山「はいッス、変なメールが届いて矢印どつりに進んだら!」

吹雪「君たちも来たの?」

染岡「吹雪！？なんでお前が！」

吹雪「携帯に変なメールが入つて、白恋中の裏に変な光があつたんだ、それに触れたて気がついたらここに。」

不動「俺たちもだ！」

源田「変わつたメールだな。」

染岡「不動、源田！」

南雲「なんだ？お前らもか？」

涼野「この森にこんな所があつたんだな。」

風丸「南雲に涼野！お前たちにもメールが！？」

「オオオオ

涼野「なんだあれは！？」

風丸「まさかあれが、真実の石版！？」

スウウウ

染岡「な、なんだ！？吸い込まれるぞ！」

風丸たち『うわあああ！！』

染岡「なんだここは！？」

壁山「まさか、ここがキヤプテンが言つてたイナズマ王国ツスカ！？」

源田「佐久間たちも言つてたな。」

ピロロロロン

吹雪「またメールだ！」

不動「矢印があの城にさしてるぜ。」

風丸「行つてみるか。」

兵士「何者だ！」

涼野「道に迷つた者です。気がついたらここに。」

兵士「・・・・・・わかつた、通るがよい。」

南雲「ほお、いい城だな。」

染岡「だが、城に入つて何があるんだ。」

円堂「染岡！」

染岡「えつ！？円堂！」

鬼道「源田、不動も選ばれたのか。」

ヒロト「涼野に南雲も来たんだね。」

豪炎寺「風丸、壁山、よく來たな。」

アフロディ「吹雪くん、また會つたね。」

風丸「選ばれたってどうゆう事だ?」

エミリア姫「私が話します。」

吹雪「あなたは?」

神無月「このイナズマ王国の姫、エミリア姫よ。」

風丸たち『姫!?!』

染岡「それはそうと円堂、お前ら未来に行つたんじゃ?」

カノン「タイムスリップ失敗したんだ。」

エミリア姫「後は私が話します」エミリア姫は新たな戦士に話した
吹雪「僕たちがキヤブテンたちと未来を救いに行く仲間にするため
呼んだんですね。」

エミリア姫「はい、そうです。」

鬼道「これで21人揃いました、後1人は誰ですか?」

エミリア姫「港にいます。」

戦士『港!?!』

イナズマ港

エミリア姫「あそこにいます。」

円堂「あの釣りをしてる奴ですか?」

エミリア姫「はい、あの子はロティ、私の弟です。」

円堂たち『弟!?!?』

木野「つて事は。」

円堂たち『王子様!』

夏末「でも王子様なのに、なんでここで釣りをしてるんですか?」
エミリア姫「それは5ヶ月前のことです。」

5ヶ月前

ロティ「何やつてんだ!」つちに回せ。」

仲間A「それ、ショート！」

ロディ「みんな、戻れ！」

試合終了後

ロディ「なぜみんな勝手に動くんだ！バラバラにサッカー やるから負けたじゃないか！」

仲間A「そうカツカスんなよ、俺達は自分が好きにできれば良いんだよ」

仲間B「勝ちたきや自分でチーム作れよ」

ロディ「もういい！！お前らのような自己中な奴らとサッカーできるか！解散だ！」

現在

エミリア姫「それ以来ロディは他人を信じれなくなりました。」

円堂「そうだつたんだ。」

エミリア姫「そしてその後です。」

- - - 5ヶ月前

ルイ大王「そうだ！イナズマノ森の木を切り倒して、広場を作ろう！」

ロディ「しかし父上！そんな事をすれば空気が汚染おせんされ体調を崩す者が増えてしまいます！」

ルイ大王「五月蠅いぞ（つるねい）ロディ！…ワシが決めた事に口出しするな！」

ロディ「チツ！」

バサツ

ルイ大王「うふふ

ロディ「！」

ロディ「アンタの氣まぐれにはもう、うんざりだ…！」

俺はこの国を出させてもらいつ…

あばよ！」

エミリア姫「ちょっと…ロディ…」

現在

冬花「でもなんで港に住み始めたんですか？」

エミリア姫「ここは、ロディの釣りスポットだからです。5ヶ月立つてもロディは帰つて来ませんでした。」

虎丸「相当ルイ大王の気まぐれと自己中なメンバーにつきぞりしてたんですね。」

エミリア姫「だから、ロンさんの心を変えた円堂さんならロディの心変えられると思ってんです。」

鬼道「なるほど、それで最後の1人はロディに決めていたんですね。」

ロン「それは俺も納得いくな。」

円堂「ロディもサッカー好きなんですね。」

エミリア姫「はい。」

円堂「任せて下さい！お~い！」

ロディ「誰だ、アンタ。」

円堂「俺、円堂 守、キミロディだよな！」

ロディ「そうだよ、んで何の用だ？」

円堂「いつしょにサッカーやらないか！？」

ロディ「やだ！俺はもう他人とサッカーはやらない。お前らの用な自分で中な奴らとやれるか。」

エミリア姫「それは違うわ、ロディ。」

ロディ「姉さん！」

エミリア姫「彼ら未来から来たチームワーク抜群の方たちよ。」

ロディ「そういうや聞いたな、4ヶ月前ダークマップを倒しイナズマ王国を救つた未来人がな。それがお前らつてわけか。」

エミリア姫「この方たちは未来を救いに行くために戦うの、そこでロディ、あなたの力が必要なの。」

ロディ「はあ？俺の力が必要だと！」

バカも休み休み言え！俺は一度と他人とサッカーはやらん！』

不動「ケツ！とか言いながら本当は自分に自信がネーンジャねーのかあ？」

ロディ「ンだと『ラ』ア！」

良いぜ！やつてやろうじやねえか！

その代わり勝負だ！」

不動「円堂、後はお前に任せるぜ。」

ロディ「なんだ？お前がやるんじゃねーのか？」

まあいい、勝負方法はPK一本勝負だ、お互に必殺技は有りとする

エミリア姫「大丈夫でしょうか？円堂さん。」

不動「まつ、大丈夫だろ。あいつだつたら心配いらねーからな。」

ロディ「いぐぞ！グリフォンスピアー！」

源田「なんだあのシユートは！？」

吹雪「すごいパワーだ！」

円堂「ゲートガーディアン▽3！つおおおー！」

ロディ「なに！」

壁山「キヤプテンの勝ちッス！」

佐久間「勝負ありだな。」

ロディ「くそ～！」

エミリア姫「ロディ、約束よ。」

ロディ「わかった、だがそれでも俺は仲間を信じない。」

寺門「頑固な奴だ。」

染岡「そうだ！円堂、試合で信頼させるのはどうだ？」「..」

円堂「そうか、信頼は共に戦う事だ！」

ロン「最初の戦士対後から仲間になつた戦士との試合だなー俺も賛成だ！」

エミリア姫「わかりました、では明日イナズマスタジアムで行います。」

メロディーヌ「ワオ！戦士同時の激突、楽しみだね。」

第25話 集いし新たなる戦士（後書き）

次回予告 戦士同時の試合が激突する。ロティは信頼を取り戻せる事ができるのか！？

第26話 みんなの熱き想い、揺れるロティの心！

イナズマイレブン、今日の格言！

円堂「信頼は共に戦う事だ！」

以上！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6641v/>

イナズマ11

2011年11月17日19時52分発行